

第 2 次石巻市総合計画

評価シート（令和 7 年度実績）

総合計画基本計画	1
第 1 章 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち（6 節）	1
第 2 章 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち（3 節）	13
第 3 章 共に支え合い誰もが生きがいを持ち自分らしく健康に暮らせるまち（5 節）	21
第 4 章 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち（6 節）	33
第 5 章 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち（6 節）	51
第 6 章 市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち（2 節）	65

第 2 期 復興・創生期間に係る対応方針	73
第 1 章 第 2 期 復興・創生期間に係る対応方針（2 対応方針）	73

地方創生の取組	77
第 1 章 人口戦略の推進（4 対応方針）	77
第 2 章 未来都市の実現（1 対応方針）	93

章	
節	
数値目標（KGI）	第2次石巻市総合計画策定に係る市民意識調査（令和元年11月～12月実施）の結果を参考に、計画の最終年度である令和7年度の目標値を設定していました。今回は令和7年度に実施した市民満足度調査の結果を基に、R7最終値を入力しています。
目標値の考え方	
設定値（％）	R3（基準値）⇒R5（中間値）⇒R7（最終値）
	⇒⇒

■節の達成状況

主な担当課						
関係課						
令和7年度の主な取組や成果						
【定量評価】 <table><tr><td>総合計画基本計画</td><td>【第2期 復興・創生期間に係る対応方針】 【地方創生の取組】</td></tr><tr><td>各KPIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上</td><td>各KGIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）</td></tr></table>			総合計画基本計画	【第2期 復興・創生期間に係る対応方針】 【地方創生の取組】	各KPIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	各KGIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）
総合計画基本計画	【第2期 復興・創生期間に係る対応方針】 【地方創生の取組】					
各KPIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	各KGIの達成度から以下の4段階で評価しています。 ◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性				
①						
②						
③						
【定性評価】 担当課において3段階で評価しています。						
内部評価	定性評価	定量評価				
	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上				

【内部評価】

定性評価と定量評価を掛け合わせた右の基準から設定しています。

- A：順調
B：概ね順調
C：やや遅れている
D：遅れている

		定性評価		
		◎	○	×
定量評価	◎	A	A	B
	○	A	B	C
	△	B	C	D
	×	C	D	D

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	1 共生型社会に向けた地域コミュニティ活動活性化の充実			
数値目標（KGI）	地域コミュニティ活動が活性化していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） コミュニティ（地域自治）活動の充実（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 48.8% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 18.2%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	48.8	⇒	54.7	⇒ 47.5

■節の達成状況

主な担当課	市民生活部地域協働課				
関係課	企画部地域振興課				
令和7年度の主な取組や成果					
住民協議会について、住民自治組織の有効性や組織設立に向けたプロセスを周知し、意識醸成を図った結果、令和7年度に市内全16地区での設立が完了し、協議会の増加に伴い交流事業数も前年度の36回から61回に増加し、住民主体の地域づくりが推進され、地域の活性化が図られた。 地域まちづくり委員会については、6総合支所において延べ19回開催し、総合計画基本計画（後期）の策定等に伴い、例年より多くの地域の発展及び活性化に向けた課題整理と地域振興策の検討が行われ、地域の均衡ある発展に向けた取組が進められた。 友好都市等との交流事業について、令和7年度は国際友好都市である中国・温州市への学生派遣事業や、国内姉妹都市・友好都市との交流事業など多くの市民参加型事業を実施した結果、事業参加者数を大幅に増やすことができた。とくに温州市への高校生及び大学生派遣事業や、ひたちなか市の姉妹都市締結20周年記念事業への本市小学生の訪問など若い世代間での友好関係促進が図られ、事業を通じて両市に対する興味関心を増進させる一助となった。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	住民協議会が未設立の3地区を含めたすべての地区での住民協議会設立を目指す。	新たに3地区で住民協議会が設立され、市内全16地区で設立が完了した。今後は、安定的な運営と活動の充実に向け、継続した支援を実施する。			
②	各総合支所によって委員会の開催状況に差があり、検討件数や検討内容にばらつきが見られる。	河南地域及び牡鹿地域の2地区から市長へ提案がなされた。引き続き、各総合支所と連携を図りながら、検討内容の充実や取組のあり方について検討を進める。			
③	交流が少ない都市との調整も図りながら、各種交流事業への参加者数増加を目指す。	市民参加型交流事業の実施により、参加者数の増加を図ることができた。今後も相手都市の意向を踏まえながら、両市にとって有益な交流に努める。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
A	◎	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 コミュニティ活動の活性化を図る							
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し	住民協議会による交流事業数（単年）					担当部課		
						市民生活部地域協働課		
指標の考え方	住民協議会の交流事業により地域住民間の交流を促進し、地域コミュニティの活性化を推進する。							
目標値の考え方	○基準値：1地区あたり3件の交流事業を実施する。 令和6年度 3件×11地区＝33件 令和7年度 3件×16地区＝48件							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P90	
目標（事業）	－	－	－	33	48			
実績（事業）	－	－	17	36	61	R7達成度	a	
達成率	－	－	－	109.0%	127.0%			
細節	2 地域の均衡ある発展を図る							
重要業績評価指標（KPI）	地域で取り組むべき事項の検討件数（単年）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	地域まちづくり委員会において、地域における課題の把握及び解決に努めることで合併前の旧町地域の均衡ある発展及び活性化を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 7件 6総合支所（河南、雄勝、河北、桃生、北上、牡鹿）ごとに各2件の地域課題等について検討を行う。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件）	－	12	12	12	12			
実績（件）	7	6	8	18	33	R7達成度	a	
達成率	－	50.0%	66.6%	150.0%	275.0%			
細節	3 友好都市等との交流を推進する							
重要業績評価指標（KPI）	友好都市等との交流事業参加者数（単年）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	地域住民が参加する多様な交流事業を実施し、関係人口の拡大を推進することで、地域の活性化を図る。また、事業を通じて自分たちの住む地域に対する理解・興味を増進させ、地域の活動への参加促進を図る。							
目標値の考え方	○基準値：平成28年度～令和元年度の平均 216名 ※令和2・3年度は全事業中止 【国内姉妹都市・友好都市】各事業50名 茨城県ひたちなか市：隔年1回、山形県河北町：年2回、山口県萩市：年1回 【国際姉妹都市・友好都市】各事業20名 イタリア・チビタベッキア市：年1回、中国・温州市：年1回							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	－	250	250	250	250			
実績（人）	0	215	250	375	565	R7達成度	a	
達成率	－	86.0%	100.0%	150.0%	226.0%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	2 少子高齢化社会に対応する移住・定住の促進			
数値目標（KGI）	移住・定住に対する施策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 住みやすさ（①＋②） ①[とても住みやすい・どちらかというに住みやすい] 60.9% ②[どちらでもない・どちらかというに住みにくい・住みにくい]×1/2 18.7%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	60.9	⇒	46.8	⇒ 39.0

■節の達成状況

主な担当課	企画部SDGs移住定住推進課		
関係課	企画部地域振興課		
令和7年度の主な取組や成果			
<u>移住・定住の促進のため各種事業を実施し、「お試し移住体験事業」では、吉野町復興住宅及び折浜復興住宅等</u> で合わせて25組42人を受入れ、子育て世帯を対象とした「定住促進住宅取得等補助制度」を36組が利用した。若者 を対象とした「定住促進奨学金返還支援事業」を46人が利用したほか、移住希望者の相談対応や、首都圏で開催さ れた移住相談イベントへの出展など積極的に本市の魅力を発信した結果、<u>前年度と比較し移住対策事業を活用した</u> <u>移住者は38人増の181人となり、移住人口の増加を図ることができた。</u> また、関係人口の増加を図るため、二地域居住推進事業の実装事業に取り組み、課題等を検証しブラッシュアッ プを行い次年度以降の事業を構築した。 <u>外国人に対する定住環境の整備については、引き続き外国人相談窓口</u>に外国人相談員を2名配置し中国人相談員 及びベトナム人相談員による対応を行っている。また、AI通訳アプリの導入等により、22言語での相談対応が可能 となり、対応言語の拡充が図られた。関係機関と連携し外国人住民が抱える不安や問題等の解決に向けた支援を 行ったことにより、<u>外国人が安心して暮らすための環境整備を推進することができた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 奨学金返還支援の情報が若い世代に行き届いてい なかったため、SNSの活用のほか、企業等を通じて さらなる周知を図る必要がある。		各医師会及び石巻商工会議所にチラシによる周知協力依 頼を実施したほか、SNSを活用した情報発信を強化し、 LINEによる申請受付の継続により申請者の負担軽減と サービスの向上を図るなど対策を講じた結果、申請件数 は前年度比で35件増加した。	
② 相談件数の増加を目指すため、不安や困りごとを 抱えている外国人住民の掘り起こしが課題となっ ている。		金融機関や商業施設での周知により、令和7年度の相談件 数は117件と前年度より相談件数を37件増やすことがで き、外国人が本市で安心して暮らすための支援を図るこ とができた。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	◎	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 移住したくなるライフスタイルの形成を図る							
重要業績評価指標（KPI）	移住対策事業を活用した本市への移住人数（単年）					担当部課		
						企画部SDGs移住定住推進課		
指標の考え方	移住対策事業（移住相談、空き家バンク、石巻市定住促進住宅取得等補助金、お試し移住体験）を推進することで、移住人口の増加を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 76人 令和3年度から移住希望者に対する住宅取得等の補助金を創設したことから、補助金を活用した移住者130人、相談窓口を利用した移住者20人を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P82	
目標（人）	－	150	150	150	150			
実績（人）	76	152	165	143	181	R7達成度	a	
達成率	－	101.3%	110.0%	95.3%	120.6%			
細節	2 国際社会に対応する安心な定住環境を整備する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	外国人住民数（単年）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	外国人が暮らしやすいまちづくりを推進するため、外国人の生活相談等の窓口を充実させ、外国人の移住人数を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和5年度末 外国人住民数1,606人 ※令和6年5月末現在 外国人住民数1,652人 技能実習や特定技能の在留資格を持つ外国人住民が増加傾向にあり、過去3年の平均として82.6名の増加となっていることから、年間80名の増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	－	1,400	1,440	1,690	1,770			
実績（人）	1,205	1,375	1,606	1,734	1,793	R7達成度	a	
達成率	－	98.2%	111.5%	102.6%	101.2%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	3 安心して暮らすための地域防災力などの向上			
数値目標（KGI）	地域の防災対策が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 地震や水害に対する防災体制づくり（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 46.8% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 22.4%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	46.8	⇒	64.7	⇒ 67.7

■節の達成状況

主な担当課	危機管理部危機対策課		
関係課	危機管理部地域安全推進課		
令和7年度の主な取組や成果			
防災訓練への参加率については、実施日を他事業との関係から、例年の11月の第一日曜日ではなく、第二日曜日に変更し実施したが、防災訓練当日を市内全小中学校の登校日としたことや、地域と連携した取組を実施したことなどにより、目標を達成しなかったものの参加率は昨年より上昇した。 災害メール配信サービスの登録人数については、市民に迅速・的確に防災情報を発信するため、電子メール、電話、FAX、LINE、SNSなど様々な発信手段を整備しており、出前講座及び防災フェア等において積極的に周知を図った結果、本サービスの基幹であるLINEの登録者数が大きく増加した。また、防災行政無線が聞こえなかった、あるいは聞き逃した市民のため、防災行政無線の放送内容を電話で確認できる防災行政無線テレフォンサービスを令和7年8月から開始した。 消防団資機材整備件数については、ポンプ置場建替件数、消防自動車更新件数、耐震性貯水槽更新件数については計画通りであったが、消防自動車更新件数については、車種により消防自動車用フレームが納品できない自動車業界の影響を受け、全体として計画数より1件少ない実施となった。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 防災訓練への参加率が目標値に達しておらず、地域住民の参加率の向上を図る取り組みが必要である。		学校と地域住民等で組織する地域防災連絡会に職員が出席し、防災訓練の概要や町内会・自主防災会等の地域における訓練の進め方等について説明・支援を行った。今後は、地域の災害リスクに応じ、地域住民等が主体となり策定する地区防災計画において、すべての地域住民が一体となり、地域防災に取り組む計画となるよう策定を支援する。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	O	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 地域防災力の向上を図る							
重要業績評価指標（KPI）		防災訓練参加率（単年）					担当部課		
							危機管理部危機対策課		
指標の考え方		災害時に迅速に対応するためには、市民一人ひとりの防災意識や災害への備えが重要であることから、防災訓練の参加率を上げることで、地域防災力の向上を図る。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 17.75％ 直近の一番高い参加率が平成30年度の20％であることから、令和7年度には人口の20％（令和7年人口推計値からの算出で25,900人）の参加率を目標値とし、令和4年度から毎年度0.56％（令和4年9月末時点人口算出で767人）の増加を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P89	
目標（％）		15.50	18.31	18.87	19.43	20.00			
実績（％）		17.75	15.45	18.14	12.98	14.57	R7達成度	C	
達成率		114.5％	84.3％	96.1％	66.8％	72.8％			
細 節		2 防災情報を発信する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		災害メール配信サービスの登録者人数（累積）					担当部課		
							危機管理部危機対策課		
指標の考え方		災害情報をいち早く発信するために有効な手段である災害情報メールの登録者人数を増やす。							
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 単年 1,635人、累積15,607人 令和3年度は目標に対して実績は大きく越えたが、令和4年度の増加率は前年よりも低調であった。令和5年度は再度伸び率が増加している。令和6年度以降も一定の増加が期待できるため、令和5年度の実績値を目標とする。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人） 単年 累積		625 10,632	360 13,811	360 14,171	1,635 17,242	1,635 18,877			
実績（人） 単年 累積		2,002 13,451	521 13,972	1,635 15,607	741 16,348	2,507 18,855	R7達成度	a	
達成率		320.3％	144.7％	454.1％	45.3％	153.3％			
細 節		3 消防機能・交通安全を推進する							
重要業績評価指標（KPI）		消防団資機材整備件数（累積）					担当部課		
							危機管理部地域安全推進課		
指標の考え方		災害時に迅速に対応するため、消防団の資機材（ポンプ置場、消防車両等）を計画的に更新・整備し、適切な維持管理を行う。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 単年18件、累積20件 消防組織体制の見直しと費用対効果を考慮し、毎年度令和3年度実績と同程度で整備を進める。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件） 単年 累積		24 24	17 37	17 54	19 73	19 92			
実績（件） 単年 累積		18 20	15 35	16 51	17 68	18 86	R7達成度	b	
達成率		75.0％	88.2％	94.1％	89.4％	94.7％			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	4 誰もが平等に生きるための男女共同参画社会の推進			
数値目標（KGI）	男女共同参画社会が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 男女共同参画の社会づくり（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 45.1% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 18.8%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	45.1	⇒	48.4	⇒ 52.4

■節の達成状況

主な担当課		企画部地域振興課	
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
政策・方針決定の場への女性の参画推進や社会のあらゆる分野における意識啓発のため、多様性を力に変え、誰もが能力を発揮できる地域社会を築くことを目指し、新たに困難な問題を抱える女性支援計画を包含した「第5次男女共同参画基本計画」を策定した。具体的な取組として、女性ロールモデル交流会を開催し、地域において女性活躍のロールモデルとなりうる人材の育成や女性が活躍できる就業環境の整備に向けた意識啓発を図り取り組んだ結果、<u>目標を達成することはできなかったが、昨年度より女性委員割合を増やすことができた。</u>また、引き続きイクボス研修や男性向け家事育児等啓発研修、乳幼児とふれあえる妊婦疑似体験を実施したほか、男女共同参画の啓発活動や男女共同参画パネル展を開催し、男女共同参画に係る取組や相談窓口等の周知を行い、<u>男女共同参画への理解を深めることができた。</u> さらに、性的指向や性自認など、多様な性のあり方や当事者への対応に関する理解を深めるため性的マイノリティ研修を開催したほか、性的マイノリティの方々が安心して暮らし、社会の一員として尊重される環境づくりにつながる地域を目指すために令和8年度導入予定の「石巻市パートナーシップ宣誓制度」について、石巻市パートナーシップの宣誓の取扱いに関する要綱を策定した。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 各種審議会・委員会における女性委員の登用が伸び悩んでいる。		女性委員の登用推進を図るため、「女性人材リスト」の充実及び活用促進を各課に呼びかけるとともに、ポジティブ・アクションの実施を推進する。	
② 各種研修における市内事業所の参加者が少ない。		研修やセミナー内容の充実を図るとともに、SNS等を積極的に活用し、研修開催に係る情報発信の強化を図り、参加しやすい環境を検討する。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 政策・方針決定の場への女性の参画を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	審議会・委員会等に占める女性委員の割合（単年）					担当部課	
						企画部地域振興課	
指標の考え方	庁内の審議会・委員会等の女性委員割合を増やし、政策・方針決定の場への女性の参画を推進する。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 25.8% 男女共同参加基本計画において、計画最終年度となる令和7年度目標値を40%としている。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（%）	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0		
実績（%）	28.0	27.8	28.1	28.2	28.9	R7達成度	c
達成率	70.0%	69.5%	70.2%	70.5%	72.2%		
細節	2 社会のあらゆる分野における意識啓発を図る						
重要業績評価指標（KPI）	「育児や家事の役割」について「夫婦同様」との回答割合（単年）					担当部課	
						企画部地域振興課	
指標の考え方	セミナーや研修等を開催し、男女共同参画への理解を深めることで、社会のあらゆる分野における意識啓発を図る。						
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 60.1% 男女共同参画基本計画において、計画最終年度となる令和7年度目標値を70%としている。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P87
目標（%）	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0		
実績（%）	49.9	66.1	72.4	75.7	72.7	R7達成度	a
達成率	71.2%	94.4%	103.4%	108.1%	103.8%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	5 持続可能な公共交通ネットワーク整備の推進			
数値目標（KGI）	公共交通ネットワークが整備されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 公共交通ネットワークの整備（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 30.2% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 29.7%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	30.2	⇒	37.4	⇒ 25.8

■節の達成状況

主な担当課	企画部地域振興課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通に対する意識改善の一環として、市職員が率先してモビリティマネジメント（※）を実践するため、令和7年5月から毎月第4金曜日を「公共交通利用促進デー」として、通勤時の公共交通の利用促進に取り組み、職員の意識改善を図ったほか、海外の技能実習生を対象にバスの乗り方講座の実施、石巻西高校が実施する「総合的な探求の時間」への協力、運転免許証の返納者に対する運賃割引制度の導入等を行い、公共交通の利用促進を行った。			
市民生活を支える公共交通等を安定的に維持するため、株式会社ミヤコーバス市内路線及び広域路線の計12路線に対して補助の実施、市内各地域住民バス運行協議会への補助及び運行協議会との協議による運行日の増加や定期券導入等の公共交通の利用促進に資する取り組みを実施することで、安定的な市内公共交通ネットワークを提供し、市民生活を支える公共交通の維持に寄与することができた。			
※ モビリティマネジメント：「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取組			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	市内路線バスに限定し、バス助成券の交付を開始したが、申請者数が当初の予定を下回る結果となった。	令和8年度から路線バスだけでなく住民バス・乗合タクシーや一般タクシーにも対象を拡大し、移動手段の拡充を図る。	
②	河南地区乗合タクシーの利用者から運行日の少なさに不満の声が上がっている。	令和8年度から運行日を週2回から週3回へ増やし、利便性の向上を図る。	
③	桃生地区住民バスの利用者からイオンモールまでの定期券導入についての要望が上がっている。	桃生地区住民バスの利用促進を図るため、令和8年度から定期券を導入する。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	◎	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 持続可能な公共交通体系を構築する							
重要業績評価指標（KPI）	公共交通利用促進事業実施回数（累積）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	学生や市民を対象に、本市の公共交通に係るワークショップやヒアリング、意見交換会等を実施することにより、公共交通機関を身近なものに感じてもらうとともに、利用方法を学ぶことで公共交通の利用者増加を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 3回 総合交通計画に基づき、毎年度2回程度の実施を維持する。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（回） 単年 累積	2 2	2 4	2 6	2 8	2 10			
実績（回） 単年 累積	3 3	3 6	3 9	3 12	4 16	R7達成度	a	
達成率	150.0%	150.0%	150.0%	150.0%	200.0%			
細節	2 市民生活を支える公共交通等を安定的に維持する							
重要業績評価指標（KPI）	公共交通ネットワーク充足率（単年）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	日常生活等を支える交通手段を確保するため、路線バス、住民バス及び乗合タクシー、牡鹿地区市民バスの公共交通ネットワークを維持する。							
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 100% 現状の路線バスや住民バス・市民バスの路線を基本（100%）とし、今後も継続した維持確保を行う。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（%）	100	100	100	100	100			
実績（%）	100	100	100	100	100	R7達成度	a	
達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち			
節	6 未来につなぐ震災伝承の推進			
数値目標（KGI）	震災を後世に伝える取組が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和4年4月～11月（震災遺構門脇小学校 施設利用者アンケート） 施設の満足度（①＋②） ①[大変良い] 79.3% ②[①以外]×1/2 9.2%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	79.3	⇒	70.7	⇒ 67.8

■節の達成状況

主な担当課	危機管理部震災伝承課			
関係課				
令和7年度の主な取組や成果				
震災遺構来訪者数の増加に向け、企画展の開催、ゴールデンウィークや夏休みには子ども向け防災学習行事のほか、年間を通じて語り部の話を聞く会等の啓発事業を行い、3月11日には追悼行事との連携事業として、夜間特別開館やライトアップなどを実施した。また、施設のPRとして、ホームページのアクセシビリティの向上や、各種SNSを活用した情報発信を行ったほか、観光やインバウンド等を意識し、展示への英語表記の追加や、仙台市内や山形県、岩手県内の旅行会社を訪問し、パンフレットを配布するなど来訪者の増加に努めた結果、震災遺構門脇小学校で前年比9,272人増の50,934人、震災遺構大川小学校で前年比6,476人増の78,126人、合計15,748人増の129,060人となり、前年度と比較し大幅に増加した。 そのほか、震災伝承を推進する取り組みとして、伝承関係団体との連携による「石巻防災・震災伝承のつどい」を令和8年1月25日（日）に開催し、37団体の協力のもと、約800人の来場があり、市内で活動する防災・震災伝承関係団体の連携を深めるとともに、防災・震災伝承の活動について市民に伝えることができた。				
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性		
① 震災遺構来訪者の増加（インバウンド需要等）に向けた取り組みが課題となっている。		施設のPRとして、ホームページの更新や、SNSを活用した情報発信を行ったほか、観光やインバウンド等を意識し、展示への英語表記の追加や、仙台市内や山形県、岩手県内の旅行会社を訪問し、パンフレットを配布した。		
② 市内小・中学校等の震災遺構活用に向けた取組が課題となっている。		出前講座「震災遺構が伝えていることを学んでみよう」へ登録し、震災遺構や学校へ出向いての講座の開講、また、教育委員会との連携により震災遺構の活用を促している。		
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】	
B	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	○	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 震災伝承を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	震災遺構来訪者数（単年）					担当部課	
						危機管理部震災伝承課	
指標の考え方	震災遺構来訪者数を増やし、東日本大震災の経験や教訓を多くの人々に伝え続ける。						
目標値の考え方	○大川小：令和3年7月開場 令和3年度 49,245人 門脇小：令和4年4月開場 年間の来訪者を門脇小58,000人（月4,800人）、大川小80,000人（月6,600人）を目標とし、企画展の開催や常設展示の更新等により維持を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P83
目標（人）	45,000	138,000	138,000	138,000	138,000		
実績（人）	49,245	116,520	129,744	113,312	129,060	R7達成度	b
達成率	109.4%	84.4%	94.0%	82.1%	93.5%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	2 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち			
節	1 豊かな自然環境の保全・生活環境の充実			
数値目標（KGI）	環境保全対策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 森林や河川、海などの自然環境の保全・活用（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 48.7% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 20.3%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	48.7	⇒	48.7	⇒ 48.8

■節の達成状況

主な担当課	市民生活部環境未来推進課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
<u>自然環境保全の普及・啓発について</u>、本市の豊かな自然と調和しながら、市民・事業者・市が協働して新たな価値や活動を築き、環境・経済・社会の調和を図りつつ、脱炭素社会の実現の取組を進める地域づくりを目指す「石巻市環境基本計画」を策定した。具体的な取組として、磯観察&ビーチクリーンや川の生き物調査、木工教室等を通して、自然環境について体験しながら学ぶ環境市民講座の開催や、昨年度と同等の規模で環境フェアを開催し、多くの市民に環境イベントに参加してもらうことで自然環境保全意識の高揚につなげることができた。 <u>環境に配慮した生活を行っている市民の増加を目指し</u>、町内会等へ継続的な清掃奉仕活動の実施を働きかけたほか、実施団体へ支援や助成を行うことにより、<u>生活環境保全意識の向上を図り、目標を達成することができた。</u> <u>脱炭素の取組としては</u>、EV充電インフラを公共施設6箇所（14口）新たに設置し、累計で22施設（47口）となり、EVの普及促進及び温室効果ガスの排出抑制が図られた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 脱炭素社会の実現のため、再生可能エネルギーの活用が重要であるが、住宅の建築数が減少傾向にあるため太陽光発電システムの申請件数も減少している。		既設住宅で太陽光発電システム等を設置していない方々への周知を強化し、電気料金の軽減や防災面でのメリットなども併せてPRしていく。	
② 新たな石巻市環境基本計画では、2030年度に温室効果ガスを2013年度比で50%削減する目標を掲げているが、具体的な取組内容が決定していない。		公共施設へのPPA方式（太陽光発電などの設備を第三者が所有し、その電気を長期契約で買う方式）を活用した太陽光発電システム導入等を検討していく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
B	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	○ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 自然環境保全の普及・啓発を行う							
重要業績評価指標（KPI）	「地球温暖化」に関心がある市民の割合（単年）					担当部課		
						市民生活部環境未来推進課		
指標の考え方	環境イベント（環境フェア）や環境市民講座等により意識啓発を図り、「地球温暖化」への関心を持つ市民の割合を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 72.1% 国の温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにする目標に向けて、2030年（令和12年）までに2013年（平成25年）比で46%削減する必要があることから、2030年（令和12年）までに「地球温暖化」に関心がある市民の割合を90%まで引き上げるため、毎年度2%ずつの増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（%）	－	74.0	76.0	78.0	80.0			
実績（%）	72.1	76.7	76.1	77.1	79.4	R7達成度	b	
達成率	－	103.6%	100.1%	98.8%	99.2%			
細節	2 生活環境を保全する							
重要業績評価指標（KPI）	環境に配慮した生活を行っているとは回答した市民の割合（単年）					担当部課		
						市民生活部環境未来推進課		
指標の考え方	自治会等の清掃奉仕活動実施団体を増やすことにより環境意識向上を図り、環境に配慮した生活を行う市民の割合を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 69.9% 令和7年度に環境に配慮した生活を行う市民の割合を78.0%まで引き上げるため、毎年度2%ずつの増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（%）	－	72.0	74.0	76.0	78.0			
実績（%）	69.9	71.9	73.2	72.9	79.7	R7達成度	a	
達成率	－	99.8%	98.9%	95.9%	102.1%			
細節	3 再生可能エネルギー等を有効活用する							
重要業績評価指標（KPI）	再生可能エネルギーによる発電量（単年）					担当部課		
						市民生活部環境未来推進課		
指標の考え方	再生可能エネルギーを有効活用するため、太陽光システム、蓄電池、HEMS（家庭用エネルギー管理システム）設置に係る支援を行い、再生可能エネルギーによる発電量を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 18,773千kWh 令和7年度に 28,500千kWhを目指し、毎年度2,000千kWhずつ増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（千kWh）	－	22,500	24,500	26,500	28,500			
実績（千kWh）	20,520	21,367	22,202	22,853	23,475	R7達成度	b	
達成率	－	94.9%	90.6%	86.2%	82.3%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	2 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち			
節	2 持続可能な社会を目指すごみの減量化と資源循環の推進			
数値目標（KGI）	ごみの減量化・リサイクルが推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） ごみ収集や処理、減量化などのごみ対策（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 71.0% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 11.5%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	71.0	⇒	61.3	⇒ 55.3

■節の達成状況

主な担当課	市民生活部環境未来推進課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
ごみの減量化については、出前講座や各種イベントで適正排出の周知のほか、燃やせるごみとして排出される「生ごみ」の水切り啓発と併せ、生ごみ減量容器（家庭用電気式生ごみ処理機・コンポスト容器等）の購入に対する補助事業を実施し、<u>ごみ排出量の削減につなげ、目標を達成することができた。</u> ごみの再資源化の推進については、ごみ総量の7割以上を占める家庭系ごみの分別指導を実施するとともに、3R（リデュース・発生抑制、リユース・再利用、リサイクル・再生利用）の推進について、出前講座の開催や広報紙等による継続的な啓発活動を実施したものの、<u>家庭系ごみのリサイクル率は、目標を達成することができなかった。</u> そのほか、廃プラスチック資源の循環利用推進のため、令和8年10月から開始するプラスチックの分別収集・再資源化について、チラシの作成・配布や出前講座等による周知及び燃やせるごみとの分別排出促進に係る意識向上に努めることができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 処理施設の延命化や処理費用の低減のため、ごみ排出量についてより一層の減量化を進めなければならない。		ごみの減量のために、リユース事業者等と連携協定の締結に向けた協議を進めた。また、市民がスマートフォンでいつでも利用できる、AIを活用したごみ分別案内サービスの導入に向け、令和8年度の予算を確保した。	
② 低迷しているリサイクル率向上のために、プラスチックの分別収集を着実に実施する必要がある。		町内会長や行政委員等の会議、出前講座及び住民説明会にて、プラスチックの分別収集について、市民に広く周知を図り、事業の趣旨を理解いただき、資源の循環を推進していく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1　ごみ減量化を推進する							
重要業績評価指標（KPI）		市民一人あたりのごみ排出量（単年）					担当部課		
							市民生活部環境未来推進課		
指標の考え方		市民の意識醸成、再資源を促進し、市民一人あたりのごみ排出量を減らす。（発生抑制）							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度　1,054g/人・日 一般廃棄物処理基本計画に基づき、令和7年度までに基準値から74g/日の削減を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再 実績値未確定	R7達成度	a
目標（g/人・日）		1,029	1,017	1,004	992	980			
実績（g/人・日）		1,051	1,059	994	981	966			
達成率 ※		97.9%	96.0%	101.0%	101.1%	101.4%			
細 節		2　再資源化を推進する							
重要業績評価指標（KPI）		家庭系ごみリサイクル率（単年）					担当部課		
							市民生活部環境未来推進課		
指標の考え方		ごみ総量の7割以上を占める家庭系ごみの分別を徹底し、家庭系ごみのリサイクル率を上げる。（再使用、再生利用）							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度　12.1% 一般廃棄物処理基本計画に基づき、令和7年度までに基準値から2.8%の増加を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再 実績値未確定	R7達成度	c
目標（%）		13.0	13.5	13.9	14.4	14.9			
実績（%）		10.2	9.7	10.0	11.1	10.5			
達成率		78.4%	71.8%	71.9%	77.0%	70.4%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	2 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち			
節	3 安全安心な住環境と都市機能の整備の推進			
数値目標（KGI）	住環境と都市機能の整備が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 今後の居留意向（①＋②） ①[今の場所（住所）にずっと住みたい・当分の間は今の場所に住みたい ・市内の別な場所（住所）に移りたい] 87.6% ②[一度市を離れるが、ゆくゆくは戻ってきたい・できれば市外に移りたい ・すぐにでも市外に移りたい]×1/2 5.0%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	87.6	⇒	50.5	⇒ 41.5

■節の達成状況

主な担当課	建設部都市計画課		
関係課	建設部河川港湾高規格道路整備推進課、建設部道路課、建設部住宅課、建設部建築指導課、建設部下水道建設課		
令和7年度の主な取組や成果			
石巻市立地適正化計画については、都市型居住促進エリア内の人口割合の目標値は達成できなかったものの、40年後を見据えたまとまりのある居住地形成に向けて、具体的な施策の検討が庁内で開始された。			
道路整備については、幹線市道の改良率は目標値をほぼ達成しているほか、公共下水道整備については、累積整備率が目標値を上回る67.5%となっており、都市機能の整備の推進を図ることができた。			
安心安全な公営住宅の提供については、移転計画に基づき、耐用年限が経過した市営住宅に居住する移転対象世帯に対し、個別説明や意向確認など移転を促す取組を実施した結果、51世帯が復興公営住宅等に移転することができ、市営住宅入居者の住環境が改善されたほか、市営住宅管理戸数の適正化を図ることができた。			
公園整備の推進については、長寿命化計画に基づき、更新や修繕の必要性が高い、袋谷地南公園や追波川河川運動公園の老朽化した遊具を含めた市内28の公園の遊具等施設を更新することで、公園利用者の安全確保と遊具等施設の機能保全を図ることができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	危険ブロック塀除却事業について、近年震度4以上の地震発生が少ないことや物価高騰を背景に、塀所有者の危機意識や除却意欲の低下が課題となっている。	所有者に対する個別訪問や啓発文書の送付を徹底するとともに、引き続き、除却の必要性を周知し、ブロック塀倒壊による事故を未然に防止するための所有者の危機意識向上に努める。	
②	空き家対策について、空き家バンク制度の認知不足により、登録・活用の停滞が課題となっている。	衛生推進委員の研修会、行政委員の総会及び宅地建物取引業協会が主催するセミナー等、様々な機会を捉えて空き家バンク制度の周知を行う。	
③	河川・港湾の整備推進のためには、県内産業の将来展望、港湾を取り巻く社会経済情勢の変化に対応した港湾整備が必要となっている。	港湾関係者と連携し、港湾整備に関する国・県への要望活動を継続して実施していく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 持続可能な生活基盤整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し		都市型居住促進エリア内の人口割合（累計）					担当部課	
							建設部都市計画課	
指標の考え方		立地適正化計画で定めた「都市型居住促進エリア」を生活サービス施設や公共交通にアクセスしやすい利便性の高いエリアとなるようまとまりのある居住地形成を図り、当該エリア内の居住人口の割合を上げる。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年 60％ 立地適正化計画において、計画最終年度となる令和22年度の目標値を65％としており、計画期間であるR6年度からR22年度までの17年間で毎年0.3％ずつの増加を目指す。 各年3月末時点の住民基本台帳字・丁別人口により毎年算出。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（％）		－	－	－	60.30	60.60		
実績（％）		－	－	－	57.10	57.20	R7達成度	b
達成率		－	－	－	94.6%	94.3%		
細 節		2 災害に対する備えを充実させる						
重要業績評価指標（KPI）		危険ブロック塀除却等事業助成件数（単年）					担当部課	
							建設部建築指導課	
指標の考え方		災害時の通行人の安全を確保するため、危険ブロック塀等除去件数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 113件 これまでの実績の検証、危険ブロック塀所有者への戸別訪問等により、令和4年度は110件、それ以降は毎年度100件を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）		100	110	100	100	100		
実績（件）		113	135	64	53	38	R7達成度	d
達成率		113.0%	122.7%	64.0%	53.0%	38.0%		
細 節		3 安全安心な公営住宅を提供する						
重要業績評価指標（KPI）		移転計画に基づく市営住宅から復興公営住宅等への移転世帯数（累積）					担当部課	
							建設部住宅課	
指標の考え方		耐用年限が経過した公営住宅の用途廃止を推進し、適正な公営住宅の戸数を管理・確保するとともに、復興公営住宅を有効活用するため、既存の市営住宅から復興公営住宅等への移転件数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 単年35件 累積53件 令和2年度事業開始。今後も同程度の実績で推移することが見込まれることから、毎年度40件の移転を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件） 単年 累積		－ －	40 93	40 133	40 173	40 213		
実績（件） 単年 累積		35 53	28 81	31 112	30 142	51 193	R7達成度	a
達成率		－	70.0%	77.5%	75.0%	127.5%		

細 節		4 空き家対策を強化する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		空き家バンク登録戸数（累積）					担当部課	
							建設部住宅課	
指標の考え方		空き家を有効活用するため、空き家物件情報をホームページ上などで提供する「空き家バンク」の登録戸数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 単年17件（累積34件） 令和3年度に事業を開始し、登録に関する相談は多く寄せられているが、未登記や未相続等が課題となっている。令和5年度より固定資産税の納税通知を送付する際、リーフレットを同封し、空き家バンクの周知方法を拡大した。 今後も空き家が増え続け、登録戸数の増が見込まれるため、毎年度20件の登録を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標	(件) 単年 累積	20 20	10 19	10 29	20 54	20 74		
実績	(件) 単年 累積	9 9	8 17	17 34	20 54	12 66	R7達成度	c
達成率		45.0%	80.0%	170.0%	100.0%	60.0%		
細 節		5 道路整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		幹線市道の改良率（単年）					担当部課	
							建設部道路課	
指標の考え方		幹線市道の道路改良率を向上させる。 ※道路改良率＝改良済延長／道路実延長 ※幹線市道：1級及び2級市道						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度87.3% 県内平均 令和5年3月31日現在 88.4% 県内平均を目標に令和7年度までに87.5%を目指す。 ※平成29年度から令和3年度まで（5年間）の延長進捗率0.1%						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標	(%)	－	86.8	86.8	87.4	87.5		
実績	(%)	86.7	87.1	87.3	87.4	87.4	R7達成度	b
達成率		－	100.3%	100.5%	100.0%	99.8%		
細 節		6 公園整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		長寿命化計画に基づく公園施設更新施設数（累積）					担当部課	
							建設部都市計画課	
指標の考え方		公園施設の安全確保と機能保全のため、長寿命化計画に基づき公園施設の更新を計画的に進める。						
目標値の考え方		公園施設長寿命化計画に基づき更新施設数を設定した。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標	(件) 単年 累積	－ －	42 42	13 55	21 76	24 100		
実績	(件) 単年 累積	0 0	50 50	6 56	9 65	28 93	R7達成度	a
達成率		－	119.0%	46.1%	42.8%	116.6%		

細 節		7 下水道等の整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	公共下水道（汚水）整備率（累積）						担当部課	
							建設部下水道建設課	
指標の考え方		生活環境の改善や公共用水域の水質保全と公衆衛生の向上を図るため、公共下水道の整備を推進する。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度65.3% 毎年度24.3haを目標に整備を推進する。全体計画面積に対する整備済面積で算出。 ※平成23年度から令和2年度まで（10年間）の平均整備面積24.3ha						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（％）		－	65.9	66.2	66.8	67.3		
実績（％）		65.3	65.7	65.6	65.8	67.5	R7達成度	a
達成率		－	99.6%	99.0%	98.5%	100.2%		
細 節		8 河川・港湾の整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	石巻港取扱貨物量（単年）						担当部課	
							建設部河川港湾高規格道路整備推進課	
指標の考え方		東北全体に及ぶ原材料、飼料の物流拠点である石巻港において、生活・産業の安定・拡大のために、取扱量拡大のための取組を行う。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 337万t（令和2年総取扱量） 現状の実績から取扱増加量（期待値）を想定し、500万tとした。 ※令和5年度実績値：令和4年総取扱量						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（万t）		440	378	419	460	500		
実績（万t）		337	357	329	305	328	R7達成度	c
達成率		76.5%	94.4%	78.5%	66.3%	65.6%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち			
節	1 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の充実			
数値目標（KGI）	妊娠・出産・子育てができる環境が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 育児相談やワークライフバランスの充実などの子育て支援（①+②） ①[満足・どちらかといえば満足] 50.0% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 17.6%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	50.0	⇒	48.3	⇒ 42.7

■節の達成状況

主な担当課	保健福祉部子ども保育課				
関係課	保健福祉部健康推進課、保健福祉部子育て支援課				
令和7年度の主な取組や成果					
妊娠から子育て期の継続的な支援を実現するため、看護師や保健師等が、妊娠届出時及び妊娠8か月頃に給付・相談事業と合わせて新生児訪問の必要性を伝える伴走型相談支援を実施することで、<u>新生児訪問事業実施率の向上を図ることができた。</u>また、出産後の産婦新生児訪問事業により、母子の健康・養育状況の確認やエジンバラ産後うつ病質問票を用いて母の精神状況を聞き取ることで、母子の心身の健康面の支援やハイリスク者の早期発見・支援につながった。 <u>子どもを産み育てやすい環境づくりのため、子育て世代包括支援センターの「いっしょへびた」「いっしょえきまえ」にて、来所する妊産婦が支援員とともに産前産後プランを作成することで、出産前後の行動計画や利用できる子育てサービスを把握することができ、出産や子育てに対する不安の軽減につながった。</u> <u>子育て環境の充実のため、放課後児童クラブの市内全地区民間委託による運営により、支援員等の人材確保が図られ、民間事業者の専門的知識を生かした運営が実現したほか、第2期石巻市公立幼稚園・保育所・こども園再編計画に基づき、（仮称）桃生こども園の建設工事への着手及び計画していた民間保育所の誘致をすべて完了することができ、多様化する保育ニーズへの対応と保育環境の充実を着実に進めることができた。</u>					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	早期に新生児訪問を実施するなど産後うつ病の予防支援を実施しているが、ハイリスク者が一定数みられる状況が継続している。	早期新生児訪問により産後うつ病の予防や育児不安の改善が図られたため、訪問時に各種サービスを紹介するなど、今後も支援体制を強化する。			
②	妊娠期から子育て期にかけて、利用できるサービスの情報提供と、妊産婦の産後うつ等の予防につながるサービス利用を推進する。	令和7年度は174件の産前産後プランを作成し、各種サービスの理解及び利用につながっていることから、今後も継続していく。			
③	市内全地区で民間委託による運営に移行したことを契機に、サービス向上のみならず、待機児童解消に向けた具体的な対応が必要となる。	専用教室及び小学校余裕教室など既存施設の活用や入級調整により受入枠を確保したことにより、待機児童が0人になった。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
A		◎		◎	
		◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 妊娠から出産、子育て期における切れ目のない支援を行う							
重要業績評価指標（KPI）		新生児訪問事業（乳児全戸訪問事業）実施率（単年）					担当部課		
							保健福祉部健康推進課		
指標の考え方		出産から子育て期の継続的な支援を行うため、新生児の訪問事業（保健師による生後4ヶ月未満の赤ちゃんがいる世帯への訪問事業）の実施率を上げる。							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 98.3% 対象期間中に里帰り出産等で訪問できない世帯があるが、それ以外の世帯へ訪問を実施する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P86	
目標（％）		98.5	98.5	98.5	98.5	98.5			
実績（％）		94.4	98.8	97.0	98.5	99.3	R7達成度	a	
達成率		95.8%	100.3%	98.4%	100.0%	100.8%			
細 節		2 子どもを産み育てやすい環境づくりを推進する							
重要業績評価指標（KPI）		子育て世代包括支援センター相談窓口における妊産婦に対する産前産後プランの作成数（単年）					担当部課		
							保健福祉部子育て支援課		
指標の考え方		妊産婦に対し、妊娠期から子育て期までの準備や利用サービス、各種健診を把握してもらい、産み育てやすい環境をつくる。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 対象となる妊産婦相談者数 66人 令和4年9月開始。年間出生数の約2割となる140人へのプランの作成を目指す。（いっしょえきまえ70人、いっしょへびた70人）							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件）		－	70	140	140	140			
実績（件）		－	133	204	177	174	R7達成度	a	
達成率		－	190.0%	145.7%	126.4%	124.2%			
細 節		3 子どもが安心して過ごせる環境を整備する							
重要業績評価指標（KPI）		保育施設及び放課後児童クラブ待機児童数（単年）					担当部課		
							保健福祉部子ども保育課 保健福祉部子育て支援課		
指標の考え方		保育施設等の待機児童数を減少させ、子育て環境を充実させる。							
目標値の考え方		○基準値：令和2年度（4月時点） 保育施設12人、児童クラブ170人 保育施設や放課後児童クラブへ申請したものの、定員超過等のため入所・入級できない児童が発生しないよう毎年度0人を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P86	
目標（人） 保育施設 児童クラブ		0 0	0 0	0 0	0 0	0 0			
実績（人） 保育施設 児童クラブ		8 5	3 0	3 9	2 2	0 0	R7達成度	a	
達成率		－	－	－	－	－			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち			
節	2 生きがいをもち自分らしく暮らせる高齢者福祉の充実			
数値目標（KGI）	高齢者福祉が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○基準値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 高齢者・障がい者への福祉サービスの質の向上（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 48.2% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 21.8%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	48.2	⇒	44.9	⇒ 44.7

■節の達成状況

主な担当課		保健福祉部介護福祉課			
関係課					
令和7年度の主な取組や成果					
高齢者の生きがいづくり促進のため、高齢者の余暇時間を活用した気軽に参加できる活動の場として「高齢者の生きがいと創造の事業」を実施することで、生きがいの創出や社会参加の促進を図ることができた。令和7年度は本庁地区において「つまみ細工講座」を新たに開設し、受講の機会を増やすことができた。 介護予防の取組の推進については、住民に対し介護予防事業の普及・啓発を行っている各介護事業所からの協力を得て事業を実施することで、介護予防の普及・啓発を試みたが、申請者数が少なく、昨年度と比較すると訪問回数は減少となった。一方で、利用者が理学療法士より指導を受けた体操を習得・実施したことにより、身体機能の維持が図られた。 高齢者の在宅支援については、介護保険制度以外の「高齢者在宅福祉サービス」を提供することで、高齢者が安心して暮らせる環境づくりを支援することができた一方、利用実績が少ない事業があるため、今後も周知に努め高齢者のニーズを把握や見直し等について検討を行っていく。 そのほか、介護予防教室や高齢者の多彩な活動への支援（サロン補助金）等、重層的に展開している介護予防事業等においては着実な成果が得られている。個別の教室実績のみならず、多様な施策を相互に連携させることで、高齢者福祉の充実に向けた取組を推進していく。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	希望者に「高齢者の生きがいと創造の事業」の受講機会を提供できたものの、昨年度より受講者数が少ない。	受講者が創作した作品を展示、披露することで、更なるやりがいや交流につながるよう取り組んだ。今後も幅広い地域から多くの方に受講してもらえるよう講座の周知を図っていく。			
②	地域によって介護予防事業の申請者数に偏りがみられる。特に旧石巻市外からの申請件数が少ない。	窓口となる地域包括支援センターに対し、事業説明を実施したほか、申請件数が少ない地域包括支援センターに利用を促すなど、今後も普及・啓発に取り組む。			
③	「高齢者在宅福祉サービス」の中に利用実績の少ない事業があるため、見直しが必要。	介護保険制度と重複するバリアフリー住宅普及促進事業と、老人日常生活用具給付等事業のうち平成28年度から給付実績のない用具（火災警報機、自動消火器）について廃止するなど、実情に応じた見直しを実施した。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
C		○		◎	
		◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 高齢者の生きがいをづくりを推進する						
重要業績評価指標（KPI）		「生きがい」を持ちながら暮らしている高齢者の割合（単年）					担当部課	
							保健福祉部介護福祉課	
指標の考え方		高齢者の心身の健康維持や向上を図るためには、日々の生活の中で「生きがい」を持つことが重要であることから、「生きがい」を持つ高齢者の割合を高める。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 67.7% 策定時において、第3期石巻市地域福祉計画（平成29年度～令和3年度）の目標値を達成していなかったため、同目標値とした。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P91
目標（％）		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0		
実績（％）		70.8	70.1	72.6	73.8	64.9	R7達成度	b
達成率		88.5%	87.6%	90.7%	92.2%	81.1%		
細 節		2 介護予防等の取組を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		理学療法士の訪問回数（単年）					担当部課	
							保健福祉部介護福祉課	
指標の考え方		高齢者が在宅で自立した生活を送れるように支援するため、対象者への身体等の評価や体操指導を行う理学療法士による訪問回数を維持する。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 104回 理学療法士の所属事業所との契約において、訪問回数は3～6か月の間に3～6回程度の訪問と定めており、対象者を20名程度と想定した。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（回）		－	120	120	120	120		
実績（回）		104	105	108	110	84	R7達成度	c
達成率		－	87.5%	90.0%	91.6%	70.0%		
細 節		3 高齢者の生活支援を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		高齢者在宅福祉サービス事業利用者件数（単年）					担当部課	
							保健福祉部介護福祉課	
指標の考え方		高齢者とその家族へ支援を行うため、高齢者在宅福祉サービス事業（寝具洗濯、バリアフリー補助、タクシー券、日常生活用具給付、訪問理美容）の利用者数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 885件 近年の最大値である平成28年度の利用件数1,189件を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）		1,162	1,190	1,190	1,190	1,190		
実績（件）		997	1,023	851	792	870	R7達成度	c
達成率		85.8%	85.9%	71.5%	66.5%	73.1%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち			
節	3 共に安心して暮らせる障害福祉の充実			
数値目標（KGI）	障害者にやさしいまちづくりが推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○基準値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 高齢者・障がい者への福祉サービスの質の向上（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 48.2% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 21.8%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	48.2	⇒	41.2	⇒ 44.2

■節の達成状況

主な担当課	保健福祉部障害福祉課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
障害者の自立と社会参加への支援及び相談・地域生活支援体制の構築については、障害者等が能力・適性に応じ自立した生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービス等の給付を行うことにより、障害者等の日常生活及び社会生活を営むための支援を継続して行うことができた。具体的な取組として、令和7年度から委託相談支援事業所4ヶ所に対して担当地区を設定し、障害福祉サービス未利用者や日常生活の困りごと等、新たな掘り起こしに取り組んだ。 その結果、障害者相談支援件数については目標値を達成できなかったものの高水準を維持し、障害福祉サービス利用人数に関しては、目標値を達成することができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 障害者が必要とするサービスの利用につながるように、制度の周知や支援体制が必要である。		委託相談支援事業所に担当地区を設け、これまで参加していなかった多職種連携会議等にも参加し、障害福祉サービスの利用へとつなげた。	
② 障害者の地域生活の支援や将来に向けた不安の解消に対応するため、相談支援体制の充実を図っていく必要がある。		基幹相談支援センターを中心として、研修会等を実施し、今後も相談支援体制についての連携や強化に努めていく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない			

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節	1 障害者の自立と社会参加への支援を行う						
重要業績評価指標（KPI）	障害福祉サービス利用人数（単年）					担当部課	
						保健福祉部障害福祉課	
指標の考え方	障害のある人が住み慣れた地域で自立した生活を継続するため、障害福祉サービスの利用人数を増やし、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行う。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 1,477人 障害者手帳所持者が減少傾向にあることから、近年のサービス利用実績の推移に基づき利用人数を算出し、併せて障害者の利用ニーズ等を勘案し数値設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	1,577	1,601	1,627	1,647	1,668		
実績（人）	1,477	1,567	1,633	1,608	1,671	R7達成度	a
達成率	93.6%	97.8%	100.3%	97.6%	100.1%		
細 節	2 相談・地域生活支援体制を構築する						
重要業績評価指標（KPI）	障害者相談支援件数（単年）					担当部課	
						保健福祉部障害福祉課	
指標の考え方	必要な情報の提供及び権利擁護を行うため、相談・支援体制を充実させ、障害者相談支援件数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 12,649件 令和7年度に向けて毎年度60件弱ずつ相談支援件数の増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）	12,700	12,775	12,858	12,925	13,000		
実績（件）	12,053	11,953	13,319	12,890	12,558	R7達成度	b
達成率	94.9%	93.5%	103.5%	99.7%	96.6%		

総合計画
 評価シート
 【総合計画基本計画】

章	3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち			
節	4 誰もが元気に暮らせる心と体の健康づくりの推進			
数値目標（KGI）	心と体の健康づくりが推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査）生活習慣予防や食育など健康づくりの取り組み(①+②) ①[満足・どちらかといえば満足] 58.3% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 15.2%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7(最終値)
	58.3	⇒	65.4	⇒ 51.3

■節の達成状況

主な担当課	保健福祉部健康推進課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
健康づくりの推進のため、各種がん検診の受診率向上を目的として、本庁地区における胃がん・肺がん検診では、保健区ごとに検診車を配車し、近隣で受診可能な体制を整えるなど引き続き受診環境の整備に注力した。また、現役世代の利便性に配慮し、イオンスーパーセンター等を会場とした土曜・夜間検診も実施した。さらに、子宮頸がん予防として、26歳から30歳の未受診者を対象とした、感染原因となる「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染状況を調べる「HPV自主検査事業」を継続実施し、若年層のがん予防に対する関心と意識の向上を図ることができた。 地域医療体制については、石巻市医師会、桃生郡医師会及び石巻歯科医師会と委託契約を締結し、休日等急患診療対策事業を実施することで、休日等における救急医療体制の確保を図り、<u>市民の急病に対する不安を解消し、安心して暮らせる医療体制を維持することができた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① がん検診について、健診内容に変わりはなく、総じて受診率が低下傾向にある。		検診機会の提供に加え、市民が健康づくりを自らの課題として捉え、主体的に取り組めるよう意識啓発を推進する。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節	1 健康づくりを推進する						
重要業績評価指標（KPI）	各種がん検診受診率（単年）					担当部課	
						保健福祉部健康推進課	
指標の考え方	がん死亡率が全国や県と比較して高い傾向にあることから、がん検診の受診率を上げ、早期発見・早期治療につなげる。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 15.1% 各検診において平成28年度から令和元年度で最も多かった受診者数から毎年度1%ずつ増加を目指し、受診率で毎年度0.2～0.3%ずつ増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（%）	16.2	16.5	16.8	17.1	17.3		
実績（%）	14.2	16.2	15.8	15.9	15.6	R7達成度	b
達成率	87.6%	98.1%	94.0%	92.9%	90.1%		
細 節	2 地域医療体制を充実させる						
重要業績評価指標（KPI）	休日当番医実施率（単年）					担当部課	
						保健福祉部健康推進課	
指標の考え方	医療機関の当番制によって、休日・祝日における休日当番医を実施し、休日における救急患者の医療体制を確立する。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 100% 医療機関の休日における実施率100%を維持する。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（%）	－	100	100	100	100		
実績（%）	100	100	100	100	100	R7達成度	a
達成率	－	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち			
節	5 みんなが共に支え合う地域共生社会の実現			
数値目標（KGI）	地域で支え合いが行なわれていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 地域包括ケア体制の推進（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 53.1% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 17.7%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	53.1	⇒	44.0	⇒ 41.2

■節の達成状況

主な担当課	保健福祉部保健福祉総務課		
関係課	保健福祉部総合相談センター		
令和7年度の主な取組や成果			
<u>地域互助活動推進事業について、活動団体の自立に向けた支援を継続するとともに、広く事業の周知を行ってきたことで地域において本制度の認知が広まり、令和7年度の活動実施団体件数が増加し、地域住民の主体的な互助活動の促進と地域コミュニティの醸成が図られた。</u> <u>奨学金返還支援事業について、地域包括ケアを推進する上で必要な医療・福祉・介護の専門職の人材確保と定住促進が継続した課題である状況を踏まえ、医師会などの関係団体を通じた事業の周知などに努めたものの、目標達成までには至らなかった。</u> <u>各種相談事業について、弁護士による無料法律相談を定期的に実施することで専門的事案への支援につなげることができ、昨年度同様目標人数を達成することができた。そのほか、各種相談事業における複雑多様な相談窓口を一元化するなど、問題解決に向けた各関係機関等と連携を継続していく。</u> <u>各種虐待防止啓発事業について、講演会や出前講座等の実施のほか、各種会議やイベント等様々な機会をとらえ虐待防止のリーフレットや相談窓口周知用のチラシを広く配付した結果、昨年度より虐待防止啓発活動参加者数を増やすことができ、各種虐待の未然防止や重症化を防ぐための啓発が図られた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 地域における互助活動の意識醸成を促すため助成内容の変更等を実施したが、各団体が自立して活動を行うまでには至っていない。		既存の事業を継続するとともに、引き続き将来的な団体の自立を促していく。	
② 奨学金返還支援事業を活用した医療、福祉、介護の専門職の更なる人材確保及び定住の促進。		事業所や対象者の目に触れやすいSNSなどを活用した制度周知について工夫し、専門職の人材確保につなげていく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 地域での孤立防止を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	地域互助活動実施団体件数（単年）	担当部課						
		保健福祉部保健福祉総務課						
指標の考え方		高齢者・障害者・子ども・生活困窮者を対象とした日常生活上の助け合い活動（送迎支援、買物支援、見守り・声がけ支援等）を行う団体数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 11件 令和5年度以降は同様の事業を整理統合し、申請実績のない自治会等に対して「互助」の意識醸成を図ることを目的として事業の見直しをすることから、これまでの実績に加え、新型コロナウイルス感染症の影響下においても地域活動に取り組んでいる団体の実績を勘案し目標値とした。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P91	
目標（件）	11	15	55	58	61			
実績（件）	13	14	41	56	61	R7達成度	a	
達成率	118.1%	93.3%	74.5%	96.5%	100.0%			
細 節		2 地域で支える活動と在宅医療・介護の連携を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	奨学金返還支援事業助成人数（単年）	担当部課						
		保健福祉部保健福祉総務課						
指標の考え方		市内に居住し、市内の事業所に勤務する医療、福祉、介護等の専門職の方に対し、奨学金返還金を助成することにより、医療、福祉、介護人材を確保する。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 36人 これまでの実績に加え、年々申請者が増加傾向にあることから、新規申請者の増加を見込んだ目標値とした。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P79	
目標（人）	－	41	46	46	46			
実績（人）	36	39	36	21	21	R7達成度	d	
達成率	－	95.1%	78.2%	45.6%	45.6%			
細 節		3 各種相談事業を充実させる						
重要業績評価指標（KPI）	弁護士無料法律相談者数（単年）	担当部課						
		保健福祉部総合相談センター						
指標の考え方		複雑化・多様化する相談に対応するため、弁護士による無料相談を実施し、専門的事案を支援する。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 198人 平成30年度から令和3年度における弁護士無料法律相談の相談者数の平均値を参考に設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	－	189	189	189	189			
実績（人）	198	200	209	214	205	R7達成度	a	
達成率	－	105.8%	110.5%	113.2%	108.4%			

細節	4 各種虐待防止・DV被害者支援を強化する						
重要業績評価指標（KPI）	虐待防止啓発活動参加者数（単年）					担当部課	
						保健福祉部総合相談センター	
指標の考え方	虐待防止に係る啓発活動を実施し、虐待に対する市民の意識や理解を高め、虐待の未然防止や早期発見につなげる。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 88人 平成30年度から令和3年度における出前講座等の参加者数の平均値を参考にし、毎年度30人ずつ増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	－	210	240	270	300		
実績（人）	88	301	358	225	303	R7達成度	a
達成率	－	143.3%	149.1%	83.3%	101.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	1 賑わいと活気にあふれる商工業の振興			
数値目標（KGI）	商工業振興策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 商工業の振興（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 43.5% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 19.4%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	43.5	⇒	44.2	⇒ 33.2

■節の達成状況

主な担当課	産業部商工課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
<u>事業者への経営支援については、新たな産業創出、研究開発、産業人材の育成等の創造的事業を行う事業者に対し産業創造助成金を活用した事業者支援を実施した。その結果、新たな取引先や顧客の獲得、商品の品質向上が図られ、事業者の高度化につながったものの交付要件に合致しない案件もあったことから目標値の達成に至らなかった。</u> <u>就業環境の充実については、昨年度に引き続き人気事業である各種チケット等の割引事業を増やすなど、会員ニーズに沿った事業を実施した結果、目標値には至らなかったが98.3%の達成率となった。</u> <u>地域ブランドの育成については、助成金を活用したブランド育成件数は3件のみであったが、6次産業化・地産地消推進センターを活用した販売促進や販路開拓は、昨年度並みの実績で推移しており、地域の様々な事業者との連携強化が図られていることから、今後も地域資源の高付加価値化のため、手法の検討を実施し、地域ブランド育成を推進していく。</u> <u>中心市街地活性化の推進について、石巻マンガロード整備として新たにベンチアートを設置するなど、街なか魅力づくりに取り組んだ結果、達成率は昨年度から微減となったものの、主要な施設の利用者数は例年通り目標値を上回ることができた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	ブランド育成件数について、助成金制度の周知強化などを実施し、事業者が6次産業化に向き合うきっかけづくりを推進していたが、実績数増加には至らなかった。	助成金創設当時と比較し、社会構造の変化や他制度を活用する事業者の増加に伴い、6次産業化・地産地消推進助成金は令和7年度で廃止とした。今後はセンターと連携しながら、他制度の周知を強化し、引き続き事業者が6次産業化に向き合うきっかけづくりを推進していく。	
②	会員の要望に応じた事業を実施するなど、参加者増加の対策を講じているが、現在も、勤労者福祉サービスセンターにおける健診事業等の福利事業の開催が制限されており、参加者数が伸び悩んでいる。	引き続き会員からの需要が多い人気事業に焦点を当てながら、参加者の増加を図り、今後も会員のニーズに応じた事業を展開していく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 事業者への経営支援を行う							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		産業創造助成金交付による事業支援件数（単年）					担当部課		
							産業部商工課		
指標の考え方		地域間競争力を向上させるため、事業者の新たな事業展開を支援・促進し、新規販路開拓や新商品開発等の事業活動を目的とした助成金を交付する。							
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 13件 R6目標値を令和5年度実績の13件とし、令和7年度からナノテラスを活用した研究開発が見込まれるためR7目標値を15件に設定した。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P78	
目標（件）		－	8	8	13	15			
実績（件）		7	5	13	13	11	R7達成度	c	
達成率		－	62.5%	162.5%	100.0%	73.3%			
細 節		2 就業環境の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI）		勤労者福祉サービスセンターにおける共済給付・行事参加延べ人数（単年）					担当部課		
							産業部商工課		
指標の考え方		中小企業に勤める方の就業環境を向上させるため、総合的な福祉事業をサポートする勤労者福祉サービスセンターの会員を対象に、自己啓発事業や健診事業等の福利厚生事業を実施する。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 5,123人 過去の実績を考慮したうえで、一人当たり3回程度の参加を想定し設定した。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）		－	7,750	7,750	7,750	7,750			
実績（人）		5,123	7,160	6,223	7,691	7,630	R7達成度	b	
達成率		－	92.3%	80.2%	99.2%	98.4%			
細 節		3 地域ブランドを育成する							
重要業績評価指標（KPI）		6次産業化・地産地消推進助成金を通じたブランド育成件数（単年）					担当部課		
							産業部商工課		
指標の考え方		地域資源の高付加価値化を図るため、1次・2次・3次産業を営む事業者がネットワークを形成して取り組む新商品開発、販路開拓等のブランド育成に対する助成金を交付する。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 3件 6次産業化・地産地消推進助成金の交付件数を算出根拠としており、当該件数の目標値を10件と設定した為、その数値に準拠した形で目標値を10件と設定した。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件）		－	10	10	10	10			
実績（件）		3	8	1	3	3	R7達成度	d	
達成率		－	80.0%	10.0%	30.0%	30.0%			

細節	4 中心市街地活性化を推進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	石ノ森萬画館・元気いちば利用者数（単年）					担当部課	
						産業部商工課	
指標の考え方	中心市街地の活性化を図るため、主要な施設である萬画館・元気いちばの利用者数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和5年度 1,576,973人 周辺地域の整備状況や社会情勢を加味し、意欲的数値である年間1％程度の増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	1,419,758	1,436,373	1,452,988	1,469,603	1,602,000		
実績（人）	1,233,639	1,481,234	1,576,973	1,616,126	1,630,648	R7達成度	a
達成率	86.8%	103.1%	108.5%	109.9%	101.7%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	2 持続可能な漁業・水産加工業の振興			
数値目標（KGI）	水産振興策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 水産業の振興（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 50.2% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 16.9%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	50.2	⇒	52.5	⇒ 48.0

■節の達成状況

主な担当課		産業部水産課			
関係課					
令和7年度の主な取組や成果					
漁場の環境保全について、地元の漁業者団体による海洋ごみの回収・処理の取組の支援や、磯焼け対策として、ウニの駆除等による藻場の保全活動や干潟の保全活動を支援した結果、生態系保全を促進することができた。 水産業の担い手確保については、受入先の確保や、求人からのマッチングを実施した結果、新規に漁業9名、水産加工業10名の計19名の就業につながった。また、漁師学校という実際の漁業作業を体験できる研修を開催した結果、7名が参加し、今後の就業に結びつくことが期待される。 水産物の流通体制の強化については、市が事務局を務める石巻食品輸出振興協議会において、アメリカ向け輸出販路の拡大を図るため、11月にLAの卸売業者、飲食店、小売店等を訪問し商談を実施したほか、3月には現地の商品パッケージに精通したLAのデザイン会社を石巻に招へいし、市内事業者を交えたワークショップを実施することにより、現地消費者の購買意欲を刺激するようなパッケージデザインに関する知見を深めることができた。 漁港の施設機能の維持については、牧ノ浜漁港及び水浜分浜漁港において、海中で浸食した防波堤の鋼管杭基礎等の機能保全を実施し、施設の長寿命化を図ると共に港内静穏度が向上し、漁業活動の就労環境を改善することに寄与することができた。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	海水の高水温や藻場の減少など、海洋環境が変化しており、漁場にも影響が及んでいる。	藻場の保全活動等を支援し、海藻の着生促進、生態系保全や藻場面積の維持・回復を図っていく。			
②	水産業就業者が年々減少しており、将来の水産業を担う人材の確保が必要である。	委託業者と連携し、担い手確保に努めた結果、目標を大きく上回る新規水産就業者数を確保することができた。同様の方向性で継続していきたい。			
③	工事費が上昇していることにより、年間事業量が減少する中で、コスト縮減を図り漁港施設の保全工事を進める必要がある。	工事積算する上で、経済性に優れた工法を採用するなど、コストの縮減に努めた発注を行った。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
A		◎		◎	
		◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節		1 漁場環境の保全を推進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		海洋の環境や生態系の保全に取り組む団体数（単年）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		漁場や海洋環境を保全するため、食害生物や外来生物等の駆除、漂流・漂着ごみの回収処理等の海洋保全活動に取り組む団体を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 11団体 令和5年度に取組を行った延べ団体数を維持する。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（団体）		3	8	8	11	11		
実績（団体）		8	9	11	11	12	R7達成度	a
達成率		266.6%	112.5%	137.5%	100.0%	109.0%		
細節		2 操業体制の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		新規水産業就業者数（単年）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		水産業就業者の減少が続いているため、移住者や若者を積極的に受け入れ、サポート体制の充実等により新規水産業就業者を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 13人 令和3年度から令和5年度までの平均値が12人であるため、毎年度13人を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P78
目標（人）		10	10	10	13	13		
実績（人）		13	12	12	12	19	R7達成度	a
達成率		130.0%	120.0%	120.0%	92.3%	146.1%		
細節		3 新たな生産体制・原料確保を促進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		石巻漁港水揚げ数（単年）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		水揚げ量の確保に向けて国内各地の漁船を誘致するため、訪問や誘致品の宅配等の誘致活動を行い、石巻漁港への水揚げ数を維持する。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 42,839隻 全国的に取り組んでいる漁船漁業の生産性向上により、漁船隻数の減少が進んでいるが、漁船誘致により、水揚げ数の現状の水準を維持する。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（隻）		－	42,000	42,000	44,000	44,000		
実績（隻）		42,839	43,583	44,653	42,673	43,364	R7達成度	b
達成率		－	103.7%	106.3%	96.9%	98.5%		

細 節		4 水産物の流通体制の強化を図る						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		水産物輸出額（単年）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		水産物の消費拡大や販路開拓のため、海外輸出に向けて本市水産物の安全性を発信し、輸出額を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和4年度 788,320千円 令和3年度から令和5年度実績の平均値が794,274千円であるため、毎年度8億円以上の輸出を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（千円）		－	590,000	600,000	800,000	800,000		
実績（千円）		580,400	788,320	1,014,102	1,110,493	860,775	R7達成度	
達成率		－	133.6%	169.0%	138.8%	107.5%		
細 節		5 石巻産水産物のブランド化を推進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		ブランド認証シール活用事業所数（単年）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		現在ブランドとして認知されている金華さば、金華かつおについて、ブランド力の維持及び確保に向けて、認証シールを活用する事業者数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 22者 令和5年度の実績を基準に毎年度1者の増加を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（者）		11	12	13	23	24		
実績（者）		10	22	22	22	24	R7達成度	
達成率		90.9%	183.3%	169.2%	95.6%	100.0%		
細 節		6 水産基盤の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI）		漁港施設機能保全事業対策工事実施箇所数（累積）					担当部課	
							産業部水産課	
指標の考え方		漁港施設の機能を保全するため、老朽化した施設や更新が必要な施設の保全工事を実施し、コストの縮減及び平準化を図る。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 3箇所 機能保全計画に基づき、市管理34漁港のうち健全度の低い27施設の対策工事を実施すべく、職員による対応可能箇所数並びに国庫補助金の採択を考慮し実施箇所数を平準化し目標値を設定した。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	b
目標（箇所） 単年 累積		2 2	7 9	6 15	6 21	6 27		
実績（箇所） 単年 累積		3 3	2 5	2 7	3 10	5 15	R7達成度	
達成率		150.0%	28.5%	33.3%	50.0%	83.3%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	3 魅力的な農林畜産業の振興			
数値目標（KGI）	農林畜産振興策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 農林業の振興（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 48.2% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 17.6%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	48.2	⇒	45.8	⇒ 39.5

■節の達成状況

主な担当課	産業部農林課		
関係課	産業部ニホンジカ対策室		
令和7年度の主な取組や成果			
持続可能な農業生産体制の整備について、引き続き農業従事者の確保対策として石巻市農業担い手センターを活用した、就農相談、農業研修、宿泊場所・就農先の斡旋、就農後のアフターケアまで一貫した伴走型就農支援を行っている。また、実際の農業を肌で感じる体験型の農業イベントを実施するとともに、遠隔地の就農希望者にオンラインにて対面個別相談を実施することで、農業の大変さや楽しさ、充実感を伝えることができ、希望者の就農に対する不安感の払しょくや興味関心を得ることにつながった結果、目標には至らなかったものの、4名の新たな新規就農者を確保し、認定農業者数の維持を図ることができた。			
豊かで身近な森林の再生について、森林環境整備として森林施業が行われずに荒廃した私有林人工林の環境改善に向け、市町村が仲介役となり森林所有者と民間事業者を繋げ適切な森林施業を実施する「森林経営管理制度」を活用し、本市への森林施業の委託について意向調査を行った結果、共有林の共有者全員からの同意が得られず、間伐可能面積の拡大ができなかったなど新たな問題が発生したこともあり、委託を希望する山林のうち目標を下回る32.43haの間伐となった。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	新規就農者は前年度の3名を上回ったものの、今後も新規就農者の確保と離農者が生じないよう、就農者の定着が課題となっている。	今後も継続した新規就農者の確保を目指し、広報に力を入れ、就農初期の住居等の問題の解消をはじめ、伴走型の支援を継続し就農者の孤立を防ぎ、定着に向けた取組に努めていく。	
②	間伐面積の拡大について、意向調査において全員からの同意が得られず、間伐が行えない状況になっている。	令和8年4月に経営管理法が改正され、1/2以上からの同意で間伐実施することが可能となり、今後は間伐可能面積の拡大が見込めることとなった。	
③	農畜産物ブランドPR事業について、相談はあっても申請に至らず、補助件数ゼロが続いていた。	事業の周知・活用を推進した結果、令和7年度は1件の申請があり、市内農畜産物の知名度向上、ブランド化を図ることができた。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 豊かな農村環境の再生と農業基盤整備を推進する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		ほ場整備率（新規採択地区）（累積）					担当部課		
							産業部農林課		
指標の考え方		農地の汎用化により効率的で収益性の高い農業を行うため、ほ場の大区画化や水利条件等の整備を推進する。（福地地区、大森地区、深谷東地区、深谷西地区 計4地区 522.7ha）							
目標値の考え方		令和4年度までに福地地区、大森地区、深谷東地区、深谷西地区が採択され、今後整備される汎用化水田の面積は、522.7haを予定しており、国、県との調整を図りつつ、令和7年度までに200haの汎用化水田を整備することとしている。目標値は、522.7haに対して、汎用化水田完了面積の比率としている。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（％）		－	9.07	22.49	30.61	38.26			
実績（％）		0	1.30	11.67	29.82	37.69	R7達成度	b	
達成率		－	14.3%	51.8%	97.4%	98.5%			
細 節		2 持続可能な農業生産体制を整備する							
重要業績評価指標（KPI）		認定農業者数（累積）					担当部課		
							産業部農林課		
指標の考え方		効率的で安定した農業経営に向けて、農業経営の改善を計画的に進めようとする農業者や農業法人を認定し支援を行う制度である「認定農業者」が減少傾向にあることから、減少を抑え維持を目指す。							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 593件 農業者が減少しているため、認定農業者も減少傾向にあるが、減少幅を抑え、現状を維持する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件）		572	567	562	557	555			
実績（件）		574	558	551	550	537	R7達成度	b	
達成率		100.3%	98.4%	98.0%	98.7%	96.7%			
細 節		3 豊かで身近な森林を再生する							
重要業績評価指標（KPI）		森林経営管理制度による間伐面積（累積）					担当部課		
							産業部農林課		
指標の考え方		森林施業が行われずに荒廃した私有林人工林の間伐を推進し、水源の涵養、国土の保全、地球温暖化の防止等の森林が持つ多面的な機能の向上を図るとともに、野生動物の隠れ場となっていた荒廃森林を見通しの良い森林に改善し、農地と野生動物の生息場所の緩衝地帯として回復させ、農作物被害の抑制を目指す。							
目標値の考え方		令和3年度計画策定、令和4年度間伐開始。毎年度約58haずつ間伐を実施する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（ha） 単年 累積		－ －	58 58	58 116	57 173	57 230			
実績（ha） 単年 累積		0 0	13.09 13.09	17.63 30.72	45.38 76.10	32.43 108.53	R7達成度	d	
達成率		－	22.5%	30.3%	79.6%	56.8%			

細 節		4 石巻産農畜産物のブランド化を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		農畜産物ブランドPR事業への補助件数（単年）					担当部課	
							産業部農林課	
指標の考え方		本市農畜産物の消費拡大に向けてブランドの知名度を上げるため、市内の生産者が市外のイベント等に出展する経費の一部補助を行うことで市内農畜産物の知名度向上・ブランド化を図る。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 1件 各種イベントで年2回程度の活動を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d
目標（件）		－	2	2	2	2		
実績（件）		1	1	0	0	1	R7達成度	
達成率		－	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%		
細 節		5 安全で高品質な農畜産物の安定供給体制を構築する						
重要業績評価指標（KPI）		農畜産物の安全性情報発信件数（単年）					担当部課	
							産業部農林課	
指標の考え方		安心して本市農畜産物を消費してもらうため、安全性を定期的に発信する。						
目標値の考え方		放射性物質の検出はほぼなくなっているが、年2回程度、ホームページ等で安全性を発信する。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d
目標（件）		2	2	2	2	2		
実績（件）		0	2	2	1	1	R7達成度	
達成率		0.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%		
細 節		6 持続可能な農業経営体を育成する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		新規就農者数（単年）					担当部課	
							産業部農林課	
指標の考え方		農業従業者の高齢化や担い手不足が続いていることから、移住者や若者を積極的に受け入れ、サポート体制の充実等により新規就農者を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度～令和5年度までの新規就農者数の平均値 5人 近年の実績から毎年度5人程度の確保を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P78
目標（人）		2	2	2	5	5		
実績（人）		4	7	7	3	4	R7達成度	b
達成率		200.0%	350.0%	350.0%	60.0%	80.0%		

細節	7 農作物の被害対策を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	有害鳥獣（ニホンジカ）による被害額（単年）					担当部課	
						産業部ニホンジカ対策室	
指標の考え方	ニホンジカ生息頭数の増加や生息域の拡大に伴い農作物被害や自動車との衝突事故による被害が発生していることから、関係機関と連携して有害捕獲を進め、生息頭数の削減に努めるとともに、農作物被害軽減のための獣害防止柵を設置することにより、ニホンジカによる被害額の軽減を図る。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度被害額 48,759千円 石巻市鳥獣被害防止計画において、農作物等の被害額を4年間で2割減とする目標を設定していることから、同様に基準値比で年間5%被害額を軽減させる目標値を設定した。 ※令和5年度実績値：宮城県が公表する速報値（6月末公表）						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（千円）	－	46,000	44,000	41,000	39,000		
実績（千円）	48,759	41,101	34,844	37,817	29,977	R7達成度	a
達成率 ※	－	111.9%	126.2%	108.4%	130.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	4 地域資源を活かした観光事業の振興			
数値目標（KGI）	観光振興策が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 観光の振興（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 32.9% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 25.9%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	32.9	⇒	59.9	⇒ 37.4

■節の達成状況

主な担当課		産業部観光政策課	
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
観光振興施策について、令和7年度は12年に一度の「金華山巳歳御縁年大祭」の広報周知に取り組み、高まる渡島ニーズに対応するため金華山航路定期運航支援事業の実施を予定したが、想定を上回る集客となり、補助金執行が不要となるなど牡鹿地区における観光施設の集客増が図られた。そのほかの観光拠点として、石ノ森萬画館では13年ぶりに2階常設展示の改修を実施し、中心市街地における中核施設の魅力向上が図られた。 石巻圏観光推進機構においては、今後の教育旅行受入れにつなげる商談の場として、旅行会社8社及び地元事業者10団体の参加のもと「石巻圏学びの旅商談会」を開催し、そのほか地域活性化起業人制度を活用し、包括連携協定締結企業からの人材派遣を受け、民間企業の専門知識や外部の視点等を活かした取組として「冬のスタディーツアー」により観光業の閑散期である冬季に実施できる体験メニューと震災学習を組み合わせた教育旅行企画の有効性を検証するなど、滞在型・周遊型観光の推進を行った。			
SNSを活用した観光PRの取組では、新たにInstagramフォロワー増加キャンペーンを実施し、フォロワー数4,485件の増加を達成したほか、昨年度に引き続き実施したフォトコンテストでは、開催期間中に市内で撮影された写真等を投稿対象とすることで、冬季の観光誘客促進を図り、効果的な魅力発信につなげることができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 宿泊観光客増加に向けた滞在型・周遊型観光の推進が課題となっている。		官民連携の下でサステナブルツーリズムに係る研修会等を実施し、滞在型観光やリピーター増に資する取組の実現に向けた体制作りを進めた。	
② 地域資源の活用促進が課題となっている。		本市の魅力や特産品の普及及び販売促進を図るため、新たな取組として、県外で開催されるイベントに参加する事業者支援を行った。	
③ SNSを通じた効果的なPRが課題となっている。		SNSを活用したコンテスト企画のほか、新たにフォロワー増加キャンペーンの実施等、PR効果の向上につながる取組を行った。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない			

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節	1 地域資源を活用した観光誘客を推進する							
重要業績評価指標（KPI）	宿泊観光客数（単年）					担当部課		
						産業部観光政策課		
指標の考え方	本市は宿泊施設が少なく通過型観光が中心であるが、宿泊観光客は、各観光施設や各種イベントの入込にも波及するものであることから、宿泊者数の増加を図る。							
目標値の考え方	○基準値：平成31年1月～令和元年12月 246,599人 平成30年から令和元年の増加人数が2,404人だったことから、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、半分である1,200人の増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	247,800	247,800	247,800	247,800	247,800			
実績（人）	149,412	181,999	238,573	240,818	262,666	R7達成度	a	
達成率	60.2%	73.4%	96.2%	97.1%	105.9%			
細 節	2 観光振興体制を構築する							
重要業績評価指標（KPI）	観光政策課SNSフォロワー数（累積）					担当部課		
						産業部観光政策課		
指標の考え方	観光誘客につなげるため、あらゆる情報媒体を活用して本市の魅力を発信し、SNSのフォロワー数を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 インスタグラム 1,496件、フェイスブック 3,394件 令和4年度以降は、前年比およそ1割の増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（件）	1,200 3,500	1,650 3,700	1,800 4,000	2,000 4,400	2,200 4,800			
実績（件）	1,496 3,394	1,861 4,426	2,071 4,560	3,527 4,684	9,569 5,115	R7達成度	a	
達成率	－	116.1%	114.5%	141.3%	270.7%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	5 企業誘致の推進と新たな産業の創出			
数値目標（KGI）	新たな雇用が創出されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 企業誘致や新たな産業創出（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 28.6% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 27.8%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	28.6	⇒	31.0	⇒ 25.6

■節の達成状況

主な担当課		産業部産業推進課			
関係課					
令和7年度の主な取組や成果					
企業立地については、資材高騰、人件費高騰に加え、借入金利の上昇による先行きの不透明感などに起因する設備投資控えの影響を受け、目標である10件の立地の達成には至らなかったが、これまでの誘致活動案件を円滑に進めた結果、製造業を中心とした4件の立地、9人の雇用を創出することができた。 創業支援については、目標には至らなかったものの、創業に関するスキルを学ぶ「創業開成塾」をはじめとした「各種セミナー・相談会」を実施し、新規創業者に対する「創業支援補助金」を14件交付したほか、新たな取組として、創業後3年以上を経過した事業者を対象とした「創業者持続化事業費補助金」を創設し、業務効率化や生産性向上、販路開拓等の取組を実施した事業者3者に対して補助金を交付するなど、様々なフォローアップの強化に努めた。 地域資源の利活用については、石巻地域産学官グループ交流会において、地域産業の活性化を目的としたセミナーを計2回開催し、延べ54人が参加となり、新産業の創出に対する理解の促進が図られた。また、セルロースナノファイバーの先進自治体である静岡県富士市主催のセミナーに参加し、市内産業への展開・応用に向けた情報収集を行ったほか、東京都で開催された企業誘致関連セミナーにおいて、本市の設備投資環境をPRするブース内でセルロースナノファイバーのサンプル展示を行い、地域資源の紹介を行うとともに、関連企業の誘致活動を行った。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	設備投資控えの影響などにより、企業立地件数は減少傾向にあることから、誘致手法の見直しなどが必要である。	積極的な企業訪問を継続しながら、企業動向や社会情勢を鑑み、ターゲットを絞り、効果の高い取組を推進する。			
②	「開成塾受講者」は減少傾向にあるほか、創業に至らない方や、創業済みの方への事業継続支援が必要である。	各支援機関と連携しながら創業希望者に対し適切な支援を提供し、令和7年度に新設した「創業者持続化事業費補助金」により創業後の支援を図っていく。			
③	地域産業に関するセミナーを計2回開催したが、1回目38名、2回目16名の計54名の参加があったものの、目標人数には至っておらず、周知手法などの検討が必要である。	年2回のセミナーを継続開催し、より市内事業者のニーズに即した「テーマの選定」を行うなど検討を進める。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
C		O		△	
		◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 新規及び既存企業への立地などに伴う支援を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	立地企業件数（単年）	担当部課						
		産業部産業推進課						
指標の考え方		企業誘致は新たな雇用創出や定住人口の増加につながるほか、市税収入等の増加にも効果があることから、企業立地意向調査や企業訪問等に取り組み、市内に新たに立地する企業数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 5件 過去5年間の企業立地実績をベースに、今後の用地分譲件数を考慮して設定した。 ※過去5年の平均立地件数/年＋今後平均分譲数/年×（100－指定企業者率34％）						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7（最終）	再掲	地方創生 P82	
目標（件）	10	10	10	10	10			
実績（件）	10	9	8	6	4	R7達成度	d	
達成率	100.0％	90.0％	80.0％	60.0％	40.0％			
細 節		2 新規創業や第二創業を促進する						
重要業績評価指標（KPI）	新規創業・第二創業件数（単年）	担当部課						
		産業部産業推進課						
指標の考え方		助成制度や相談支援体制を充実させ、新規創業や第二創業件数（中小企業等が、新しい経営者を就任させ、新しい分野に進出すること）を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 4件 創業支援等事業計画に基づき創業者数を設定した。 （創業者数＝推定年間創業件数100件×潜在的創業希望者割合6.8倍×創業希望割合47％×支援目標10％×創業率10％）等の合算						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7（最終）	再掲		
目標（件）	9	9	9	9	9			
実績（件）	9	14	9	11	8	R7達成度	b	
達成率	100.0％	155.5％	100.0％	122.2％	88.8％			
細 節		3 地域資源を活かした産業を強化する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	地域資源利活用セミナー参加者数（単年）	担当部課						
		産業部産業推進課						
指標の考え方		CNFなど、今後用途・事業展開が見込まれ地域資源の利活用を促進するため、セミナーの開催や情報提供を行うほか、新技術の導入、新規事業への進出等、経営基盤の強化や新たな事業展開を行う事業者への支援を行うことで、地域の雇用創出や産業の活性化に努める。						
目標値の考え方		○基準値：令和4年度・令和5年度 平均値 72人 令和4年度・令和5年度に開催したセミナーでの参加事業者数の平均値を基準とし、令和6年度以降は年2回開催、各35人として設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7（最終）	再掲		
目標（人）	20	20	20	70	70			
実績（人）	0	83	60	71	54	R7達成度	c	
達成率	0.0％	415.0％	300.0％	101.4％	77.1％			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち			
節	6 未来の産業を担う人材の確保と育成			
数値目標（KGI）	未来の産業を担う人材の確保と育成に関する取組が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 販路拡大や人材確保など地元企業の育成（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 30.0% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 26.7%			
設定値（%）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	30.0	⇒	34.6	⇒ 24.3

■節の達成状況

主な担当課	産業部産業推進課		
関係課	産業部商工課		
令和7年度の主な取組や成果			
人材の確保について、高校3年生を対象とした合同企業説明会及び石巻北高校飯野川校向け地域産業学習会に215名の就職希望生徒の参加があったほか、就職を希望する桜坂高校及び石巻北高校の3年生を対象とした企業見学ツアーに9名、新たに実施した桜坂高校の2年生を対象とした企業見学ツアーに6名の参加があった。また、一般求職者向けの合同企業説明会を2回、60歳以上を対象とした高齢者向けの合同企業説明会を1回開催し、計248名の参加があり、うち18名が採用につながった。<u>全体的に各事業において参加者を増やすことができ、目標を大きく上回ることができた。</u> 人材育成支援については、若手経営者を対象に、経営に必要なスキルや課題解決手法等を学ぶ「中小企業セミナー（経営革新塾）」を開催した。目標人数には達しなかったものの、14名が参加し、経営や社会情勢に関するワークショップや先進的企業への視察等を通じて、<u>今後の地域産業界をけん引する経営者の育成が図られた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 高校生の生徒数の減少や進学率の増加に伴い、高校生の参加者は減少傾向にある。		企業見学ツアーの開催回数を増やし、県立高校にも間口を広げたほか、高齢者向けの合同企業説明会の開催時期を見直し、参加率の上昇につなげたことで目標を達成することができた。	
② 中小企業セミナー参加者が目標値に達しておらず、セミナー内容の精査、周知が課題。		セミナー事務局の体制を一新し、新体制のもと講座内容の精査を実施した。その結果、昨年度と比較して参加者数は2名増加した。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	◎	◎ ◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎ ◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 関係機関との連携により人材を確保する							
重要業績評価指標（KPI）	合同企業説明会への求職者の参加人数（単年）					担当部課		
						産業部商工課		
指標の考え方	産業人材を確保及び育成するため、関係機関との連携により合同企業説明会の参加人数を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 一般向け 16人、高校生向け 413人（2回） 令和4年度からは高校生の合同企業説明会参加者を含めて設定した。 一般求職者向け 100人（年2回×1回あたり50人） 高校生向け 250人（年1回）							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P82	
目標（人）	200	350	350	350	350			
実績（人）	429	77	526	390	478	R7達成度	a	
達成率	214.5%	22.0%	150.2%	111.4%	136.5%			
細節	2 人材の育成支援を行う							
重要業績評価指標（KPI）	中小企業セミナー参加者数（単年）					担当部課		
						産業部産業推進課		
指標の考え方	中小企業の課題解決に向けて、ワークショップ形式や討論形式による対話型のセミナーを開催し、参加者数を維持する。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 16人 過去の実績を踏まえ、ワークショップ等を実施するのに適切な人数規模で設定した。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	15	15	15	15	15			
実績（人）	15	12	12	12	14	R7達成度	b	
達成率	100.0%	80.0%	80.0%	80.0%	93.3%			

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	1 安全に安心して学ぶための教育環境整備の推進			
数値目標（KGI）	安全安心な教育環境が整備されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 学校設備や教材等の学習環境の質の向上（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 50.3% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 17.2%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	50.3	⇒	51.8	⇒ 40.5

■節の達成状況

主な担当課	教育委員会学校管理課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
充実した教育を行うための環境整備については、文部科学省が策定した教材整備指針を参考に「石巻市立小・中学校整備方針」を定め、令和2年度からの10年間で、各小中学校で策定した整備目標に対する充足率を100%に近づけることで教材の整備を図ることとしている。令和7年度においては、昨年度に比べると充足率は下がったものの、<u>学校現場との協議のもと、引き続き教材整備を推進し児童生徒の教育効果の向上に寄与した。</u> 安全安心な学校施設整備については、令和2年度策定の「学校施設整備保全計画」に基づき、整備優先度の高い蛇田中学校校舎長寿命化改修工事及び新たに前谷地小学校屋内運動場改築工事に着手し、<u>計画的な学校施設整備に取り組むことができた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 教材については、着実に整備が進んでいるものの、中学校における充足率がいまだ低い状況となっている。		限られた予算の中での対応となることから、教材の購入については、入札等を効果的に実施することで予算を有効に活用し、今後も整備数の増加を図っていく。	
② 学校生活に支障をきたすことなく、必要な施設整備を実施していく必要がある。		学校現場との調整により、代替施設の利用及び利用に際する輸送等の対応を行うことで、教育環境の停滞を防ぎつつ施設の整備を図っていく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
		◎	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節	1 充実した教育を行うための環境を整備する						
重要業績評価指標（KPI）	学校教材整備目標に対する備品の充足率（累積）					担当部課	
						教育委員会学校管理課	
指標の考え方	良好で質の高い教育環境のため、教育内容や指導方法に対応した教材の購入や、老朽化した教材の計画的な更新を進める。						
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 47.4% 文部科学省の教材整備方針に基づき策定した石巻市小・中学校教材整備方針における考え方を基本とし、現状を踏まえた充足率を設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（％）	60.00	63.70	67.40	71.00	74.60		
実績（％）	57.50	66.95	69.75	74.60	74.25	R7達成度	b
達成率	95.8%	105.1%	103.4%	105.0%	99.5%		
細 節	2 安全安心な学校施設整備を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	校舎等整備事業完了件数（累積）					担当部課	
						教育委員会学校管理課	
指標の考え方	児童・生徒が充実した学校生活をおくるためには、学習・生活の場である学校が安全・安心である必要があることから、学校施設を計画的に整備・更新する。						
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 3件 石巻市学校施設整備保全計画に基づき、将来的な学校施設の統合を踏まえ、整備完了件数を概ね年3件と目標値を設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）	3	3	6	9	9		
実績（件）	3	3	6	9	9	R7達成度	a
達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実			
数値目標（KGI）	学校教育が充実していると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 国際理解や情報・環境教育など現代社会に対応した教育の推進（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 43.8% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 20.6%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	43.8	⇒	56.2	⇒ 40.9

■節の達成状況

主な担当課	教育委員会学校教育課		
関係課	教育委員会教育総務課		
令和7年度の主な取組や成果			
学校教育の充実については、児童生徒のやる気や自信を育むため、マルチレベルアプローチ理論を取り入れた「学校わくわくプラン事業」を実施し、令和7年度は、出張ダンス教室という形式で、プロダンサーが講師として市内小学校9校に訪問した結果、630名の児童が参加し、ダンスを通じて自分を表現する楽しさを味わうことができた。また、市の公共施設を活用した校外学習モデルの計画実行や、全小学校を対象にタブドリ祭り2025の開催、子どもたちの知的好奇心を育むイベントとして「わくわくチャレンジ」など様々な事業に取り組んだ結果、<u>学校が楽しいと感じている児童生徒の割合について、引き続き高水準を維持することができた。</u> 外国語教育の推進については、ALTと日本人教師が連携して授業づくりを行い、魅力ある授業を実施することで、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に資することができた。また、ALT自身の創意工夫により、児童生徒が楽しみながら英語に触れる機会を創出し、「ALTとの授業が楽しい」と感じる児童生徒の割合において、<u>目標を達成することができた。</u> 奨学金貸与事業における採用人数について、昨年度より実績は低下したが、LINEによる制度周知を実施し、真に制度を必要とする人へ情報が届くよう適切な制度周知に努め、有能な人材の育成を支援する。 就学に係る支援強化のため、経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し就学に必要な経費の一部を支給する就学援助制度について、<u>制度利用希望者に対し、漏れなく適切な支援を実施することができた。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 多くの児童生徒にやる気や自信を与える取組を充実させる。		学校訪問型の出張ダンス教室を実施し多くの児童が参加した。また、子どもたちの知的好奇心を育むイベントとして「わくわくチャレンジ」を実施した。	
② ALTの授業力を向上させる。		年間2回ALTの授業観察を行い、指導助言を行った。また、ALTによる創意工夫を凝らしたゲームやアクティビティを取り入れることで、授業力の向上が図られた。	
③ 奨学金制度の利用者が減少している。		募集案内についてLINE配信を行い、制度を必要とする方へ情報が行き届くことにより、応募者数の増加が図られた。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない			

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 学校教育の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		学校が楽しいと感じている児童生徒の割合（単年）					担当部課		
							教育委員会学校教育課		
指標の考え方		児童生徒の主体的に生きる力を育成するため、児童生徒の意欲を高めることが重要であることから、学校が楽しいと感じている児童生徒の割合を高める。							
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 92.2% 高い数値で推移しているが、引き続き高水準を維持する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P86	
目標（％）		80.0	82.0	84.0	93.0	94.0			
実績（％）		91.7	91.0	92.2	92.4	93.0	R7達成度	b	
達成率		114.6%	110.9%	109.7%	99.3%	98.9%			
細 節		2 外国語教育を推進する							
重要業績評価指標（KPI）		ALTとの授業が楽しい児童生徒の割合（小・中学校）（単年）					担当部課		
							教育委員会学校教育課		
指標の考え方		国際化が進展する現代において、異文化を受容し共生する能力を育成するため、外国語を身近に感じ、ALTとの授業が楽しいと感じている児童生徒の割合を高める。							
目標値の考え方		○基準値：平成29年度～令和3年度の平均 87.62% 令和3年度以前より高い数値で推移しているが、現状と同程度の水準を維持する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（％）		－	90.0	90.0	90.0	90.0			
実績（％）		90.9	90.5	93.0	93.0	93.0	R7達成度	a	
達成率		－	100.5%	103.3%	103.3%	103.3%			
細 節		3 有能な人材を育成支援する							
重要業績評価指標（KPI）		奨学金貸与者のうち、進級又は修了（卒業）した者の割合（単年）					担当部課		
							教育委員会学校教育課		
指標の考え方		未来を担う学生が経済的理由等により就学を諦めることがないよう、奨学金の貸与を実施する。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 97.8% 奨学金貸与者全員が無事に進級又は終了（卒業）することを目標とする。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（％）		－	100	100	100	100			
実績（％）		97.8	93.5	100	100	94.1	R7達成度	b	
達成率		－	93.5%	100.0%	100.0%	94.1%			

細節	4 就学に係る支援を強化する						
重要業績評価指標（KPI）	就学援助を要する児童生徒の保護者への補助実施率（単年）					担当部課	
						教育委員会教育総務課	
指標の考え方	経済的理由等により就学困難な児童生徒が必要な支援を受けられるよう、学用品費や通学用品等をはじめとして就学に係る費用の助成を行う。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 100% 申請者のうち、経済的理由等により就学困難と認められる児童生徒の保護者が漏れなく適切な支援を受けることを目標とする。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（％）	－	100	100	100	100		
実績（％）	100	100	100	100	100	R7達成度	
達成率	－	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	3 いのちを守る防災教育の推進			
数値目標（KGI）	防災教育が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 防災知識の普及や防災教育の充実などの地域防災力の向上（①+②） ①[満足・どちらかといえば満足] 50.1% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 19.6%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	50.1	⇒	65.4	⇒ 63.9

■節の達成状況

主な担当課	教育委員会学校安全推進課			
関係課	教育委員会学校教育課			
令和7年度の主な取組や成果				
相談体制の充実については、市内各学校にスクールカウンセラーを配置し、震災の影響や日々の学校生活の中で心のケアが必要な児童生徒、保護者に対する相談業務を実施しているほか、教員に対する相談業務も実施し、昨年度に引き続き教員への研修会を実施することで、カウンセリングマインドの醸成が図られている。一方で、スクールソーシャルワーカーによる訪問回数に対する問題解決・好転した割合については、昨今、児童生徒や保護者が抱える問題が多様化・複雑化し、訪問を継続しても解決・好転につなげるのが難しい事例もあり、昨年度より実績は減少することとなった。今後もスクールソーシャルワーカーが関わり、児童生徒や保護者の不安や悩みを受け止める体制を整えることで、課題改善の糸口が見つかることも考慮し、引き続き心のケアの充実を図っていく。 防災教育の充実については、市内各学校園の防災担当の教職員の災害対応力の向上を目的とした「防災主任研修会」を実施し、東北大学の教授等に指導助言をいただきながら、地形図やハザードマップを用いた学校区における災害リスクに関する講義・演習、各学校で作成する学校安全マニュアルの点検結果の報告、不審者対策及び大雨洪水災害を想定した避難訓練実践モデル校の実践発表等を行うことで、各校での防災教育における実践結果及び防災教育に対する共通理解を深めることができた。また、令和7年度も石巻市総合防災訓練の日を登校日としており、地域と連携した避難訓練の実施や学校で防災に関する学習を実施することで、児童生徒及び教職員の防災意識の向上が図られた。				
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性		
①	多様化・複雑化する学校現場における課題に対応するため、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用した校内における相談体制をさらに充実させていく必要がある。	スクールソーシャルワーカー同士の連絡、情報交換を行う機会の確保や研修の機会を設定することにより、問題解決スキルの向上を図り、学校と相談に関する情報共有をより密にする、必要に応じて外部機関との連携を図る取組などを継続的に実施する。		
②	今後は、小中学校に在籍する児童生徒の全てが、震災を経験していない世代となり、教職員にも同様の傾向が見られ始めているため、どのように震災の教訓を伝え生かすか。	防災教育副読本を毎年度改訂し、実態に即した活用しやすい副読本の作成に努め、市総合防災訓練の日は地域と連携した避難訓練を実施し、東日本大震災の教訓を踏まえた防災学習を行うことで防災意識の向上を図る。		
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】	
D	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	×	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 心のケアや相談体制の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し		支援対象児童生徒の解決・好転件数の割合（単年）					担当部課	
							教育委員会学校教育課	
指標の考え方		スクールソーシャルワーカー（教育機関において社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する者）が関わり、支援対象の児童生徒の抱える問題の解決・好転を目指す。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 解決・好転件数の割合 45.3% スクールソーシャルワーカーが児童生徒の環境や支援のためのネットワーク構築を推進し、問題の解決・好転を図る。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P87
目標（％）		－	－	－	70.0	70.0		
実績（％）		－	－	52.5	60.5	41.1	R7達成度	d
達成率		－	－	－	86.4%	58.7%		
細 節		2 防災教育の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI）		防災教育研修回数（単年）					担当部課	
							教育委員会学校安全推進課	
指標の考え方		防災教育の指導力と学校の災害対応力を高めるため、教職員に対する防災教育研修会を実施し、開催回数を維持する。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 4回 全学校の安全担当主幹教諭や防災主任を対象とした実践的な防災教育研修会を年4回維持する。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（回）		4	4	4	4	4		
実績（回）		4	4	4	4	4	R7達成度	a
達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進			
数値目標（KGI）	地域ぐるみで教育活動が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 地域と連携した学習機会の提供（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 47.5% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 18.5%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	47.5	⇒	56.2	⇒ 49.3

■節の達成状況

主な担当課		教育委員会生涯学習課	
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
「ふるさと子どもカレッジ事業」については、市内小学校高学年の生徒を対象に参加者を募集し、市内各地域の特色を活かした体験活動を取り入れた講座を開設することにより、子どもたちの豊かな心を育み、自らの故郷について知り、学ぶ機会を創出した。令和7年度の申込人数は15名であり、全7回の実践的な体験型講座を開催し、昨年度より参加者満足度は減少となったが、石巻圏域を舞台に、石巻専修大学・県水産高校の施設見学や自然観察、防災学習、化石調査など、地域の資源を多角的に活用しながら学びと交流を深めることができる講座を企画することができた。			
「ジュニア・リーダー活動」については、令和7年度のジュニア・リーダーサークル会員数は41人であり、中学校を卒業した生徒が高校進学後もサークル活動を継続していることや、初級研修会への参加周知を強化してきた結果、会員数は増加傾向となっている。活動面では、サークル間の交流促進がメンバーの意欲向上に寄与しており、各種団体への派遣や公民館事業への積極的な参画により、実践を通じた資質の向上が図られている。特に石巻地区青年文化祭では、来訪者対応や地域住民への働きかけに主体的かつ支援的な姿勢が見られるなど、地域社会を支える次世代リーダーとしての着実な成長を確認することができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	ふるさと子どもカレッジ事業について、募集定員30人に対し参加人数が満たない。	年当初に次年度対象の市内全小4・5年生にアンケートを行い周知を兼ねたニーズ把握を実施した。今後は郷土愛をより育む活動を立案し、送迎負担や日程に配慮した参加しやすい環境を整備する。	
②	新規会員減少により派遣人員が不足し、休止地区の増加やサークル存続の危機に直面している。	中学校と連携し研修受講者を募るとともに、体験会など入会へ繋げる工夫を各サークルで実践し、次世代リーダーの着実な確保を図る。	
③	派遣事業の教育的効果は高いが、人員不足で要請への対応や単独行事が困難な状況にある。	サークル間の交流研修や行政事業への参画機会を増やし、意欲と資質を向上させる。広域的な連携体制を構築し、持続可能な活動運営を推進する。	
内部評価		定性評価	
A	○	◎	
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 地域で支える教育活動を支援する						
重要業績評価指標（KPI）	ふるさと子どもカレッジ参加者満足度（単年）					担当部課	
						教育委員会生涯学習課	
指標の考え方	子どもたちが郷土の自然や文化を体験するため、地域や企業の協力のもと、年間7回を通して各地区の特色を生かした講座を開催し、参加者の満足度が高い内容を実施することで参加者数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 83% 全参加者が満足できる事業内容を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	地方創生 P83
目標（%）	100	100	100	100	100		
実績（%）	100	100	100	100	88.9	R7達成度	b
達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	88.9%		
細節	2 青少年の健全な成長を支援する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	ジュニア・リーダー活動人数（単年）					担当部課	
						教育委員会生涯学習課	
指標の考え方	子ども会活動等における体験活動の指導・支援を行う青年ボランティアであるジュニア・リーダーを育成し、活動数を増やすことにより、中高生であるジュニアリーダーと児童がお互いに成長する機会を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和5年度 247人 令和5年度の実績を基準とし、毎年度約5%の増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	－	55	60	259	271		
実績（人）	49	138	247	317	348	R7達成度	a
達成率	－	250.9%	411.6%	122.3%	128.4%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進			
数値目標（KGI）	生涯学習に親しむ取組が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 図書館、文化ホールなどの整備・充実（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 35.7% ②[どちらかといえば不満・満足]×1/2 25.6%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	35.7	⇒	57.9	⇒ 49.8

■節の達成状況

主な担当課	教育委員会生涯学習課				
関係課	教育委員会図書館				
令和7年度の主な取組や成果					
生涯学習環境の充実を目的に実施している出前講座について、講座一覧の配布のほか、石巻市公式LINEでの情報発信、人気ランキングの窓口掲示と学校への送付など事業周知を強化した。また、従来の申込書様式に加え、オンライン（LoGoフォーム）での申込を可能とした結果、実施件数増加へとつなげることができた。					
市民の読書活動推進のため、「出張図書館」を52回開催し5,659冊を貸し出すことで、来館困難な延べ927人の読書機会を確保し、地域間の情報格差を解消した。運営面では分館との連絡会議や研修を重ね、市内全域で均一かつ質の高いサービス提供体制を確立している。利便性においては、Web貸出延長サービスの開始やカラーコピー機の導入により、利用者の時間的負担の軽減と複写品質の向上を実現した。また、点訳ボランティアの養成により障害者サービスを拡充し、誰もが平等に情報を享受できる多角的な生涯学習環境を構築した。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	出前講座の受講者は増加傾向にあるが、更なる受講者増加を促すため、メニューの更新や内容の充実が課題となっている。	年度末に照会するメニューの更新の際に追加及び申し込みの少ないメニューの更新等を担当課へ促す。現行要綱では行政情報の周知が主目的となっているが、民間開放も視野に検討を進める。			
②	単に資料を収集し閲覧・貸出するという旧来型の利用から、気軽に立ち寄り滞在し、学びを深めることもできる「居場所」としての役割が求められており、より手軽に図書館サービスを楽しむことができるよう、ソフト面での充実を検討する必要がある。	定期的な出張図書館（アウトリーチサービス）の継続、貸出期間延長サービスの開始により、利用者の利便性が向上された。既存資源を再活用しながら、より快適な館内読書環境の構築に取り組む。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
A		◎		◎	
		◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：「a または b」のみで a が半数以上 ○：「a または b」のみで a が半数未満 △：「c または d」があり d が半数未満 ×：d が半数以上	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 生涯学習環境を強化する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		出前講座実施件数（単年）					担当部課	
							教育委員会生涯学習課	
指標の考え方		出前講座のメニューを充実させることにより、出前講座申込件数の増加を図り、生涯学習事業参加者数の増加へつなげる。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 220件 令和5年度の実績を基準とし、毎年度約5%の増加を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）		－	105	110	231	242		
実績（件）		103	144	220	244	259	R7達成度	a
達成率		－	137.1%	200.0%	105.6%	107.0%		
細 節		2 読書の推進・環境を整備する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		図書館利用者数（単年）					担当部課	
							教育委員会図書館	
指標の考え方		市民の読書活動を推進するため、図書館利用者を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 110,594人 令和5年度の実績を基準とし、月30人×12か月＝年間360人ずつ増加を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）		－	102,626	102,986	110,954	111,314		
実績（人）		102,266	108,967	110,594	114,998	116,579	R7達成度	a
達成率		－	106.1%	107.3%	103.6%	104.7%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち			
節	6 生涯にわたるスポーツ活動の推進			
数値目標（KGI）	スポーツに親しむ取組が推進されていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） スポーツ・レクリエーションなどが出来る機会の提供（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 42.0% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 22.5%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	42.0	⇒	63.6	⇒ 50.4

■節の達成状況

主な担当課	市民生活部スポーツ振興課		
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
スポーツ活動の推進及び環境整備について、運動習慣がない方や年齢を問わず気軽に楽しむことができる「いしのまき市民スポーツフェスタ」や体育館スポーツ教室などを実施したほか、小学校低学年を対象としたキッズバレーエィスポーツ教室や保育園体育教室を実施した。このような一連の取組により、市民がスポーツを身近なものとして生活に取り入れ、習慣化するきっかけづくりに寄与することができた。			
スポーツ交流活動の推進について、「ツール・ド・東北2025」や「第9回いしのまき復興マラソン」には市外からの参加者も多く、特にいしのまき復興マラソンは、曲がり角を極力減らすなどコースの一部変更やゴール後の地場産品のおふるまい及び参加賞の充実など、参加者意見を反映し実施した結果、出走者数が前回大会よりも約430名の増加となった。そのほか、プロスポーツチーム（東北楽天ゴールデンイーグルス、ベガルタ仙台、マイナビ仙台レディース）との連携事業や現役アスリートや元プロ選手を講師とした各種教室を実施し、市民がスポーツの楽しさや魅力を身近に感じられる機会を創出するとともに、市内小中学校でアスチャレ！スクール及びジュニアアカデミーを実施し、パラスポーツの普及啓発・理解促進につなげるなど、様々な事業の実施により、多くの方々との交流を促進することができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① より多くの参加者が集まる事業の実施を目指していたが、スポーツ教室において、参加者数が減少した事業があった。		参加者数減少の原因を調べたところ、悪天候や他大会との日程重複等の要因により参加者数が減少した事業があった。今後は、より多くの人に参加いただけるよう広報の仕方や日程等を検討していく。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない			

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節	1 スポーツ活動を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	スポーツ教室参加者数（単年）					担当部課	
						市民生活部スポーツ振興課	
指標の考え方	市民がスポーツを実施する機会を確保するため、各種スポーツ教室を実施し、参加者数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 3,117人 実績に計上する事業を整理し、令和3年度の実績を基準に毎年度1%ずつ増加を目指す。 総合型地域スポーツクラブ普及促進事業、保育園体育教室、キッズバラエティ教室、卓球・バドミントン教室、出前講座、ティーボール教室の集計。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	4,000	12,000	12,120	12,240	12,360		
実績（人）	3,117	9,845	11,503	12,359	11,272	R7達成度	b
達成率	77.9%	82.0%	94.9%	100.9%	91.1%		
細 節	2 スポーツ環境を整備する						
重要業績評価指標（KPI）	体育施設利用者数（単年）					担当部課	
						市民生活部スポーツ振興課	
指標の考え方	老朽化した施設の改修や既存施設の開放により、市民が安全で快適にスポーツを実施できる環境を整え、体育施設の利用者数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 446,027人 毎年度5%ずつ増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	423,000	468,000	491,000	516,000	542,000		
実績（人）	446,027	442,136	503,756	573,317	566,517	R7達成度	a
達成率	105.4%	94.4%	102.5%	111.1%	104.5%		
細 節	3 スポーツを通じた交流活動を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	スポーツ交流イベント参加者数（単年）					担当部課	
						市民生活部スポーツ振興課	
指標の考え方	市民がスポーツの楽しさや魅力を身近に感じられるよう、市内外から多くの人を呼び込める様々なスポーツ交流イベントを開催し、参加者数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 375人 実績に計上する事業を整理し、新たに事業を追加した。令和3年度の実績を基準に毎年度1%ずつ増加を目指す。 市主催スポーツ交流イベント、プロスポーツと連携したスポーツ交流事業、オリンピックデーラン、あすチャレ！school、ツール・ド・東北、復興マラソン、県駅伝競走大会の集計。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	400	5,000	5,050	5,100	5,150		
実績（人）	375	5,038	4,801	6,161	6,557	R7達成度	a
達成率	93.7%	100.7%	95.0%	120.8%	127.3%		

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	6 市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち			
節	1 市民に寄り添い信頼される行政運営の推進			
数値目標（KGI）	信頼される行政サービスが行われていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 市役所の窓口サービス（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 54.0% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 17.8%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	54.0	⇒	52.8	⇒ 37.4

■節の達成状況

主な担当課	総務部秘書広報課		
関係課	総務部総務課、企画部DX推進課		
令和7年度の主な取組や成果			
<u>多様な市民ニーズの把握（広聴事業）については、「動く市長室」を各総合支所、各支所及び離島において11回開催、「まちづくり懇談会」を3回開催、「市長室開放デー」を1回開催し、市民から意見・提案等をいただく機会として多様な市民ニーズを把握することができた。日中仕事の方も参加しやすいように夜間の開催等の工夫をした結果、参加人数が目標の300人を上回る320人となり、いただいた意見・提案等についても所管課にて検討を行い、区長会等を通じて市の考えを伝えることができた。</u> <u>市民の関心を高める情報発信（広報事業）については、市報、ホームページ、SNS（LINE、フェイスブック、X等）、定例記者会見、記者クラブへの投げ込み等により適時適切な市政情報の発信を行った。市政に関心がある市民の割合は目標を下回ったものの、全体の3分の2を超えることができた。</u> <u>情報開示請求については、慎重な判断を要する事案が一定数あったことから所要日数は増加したものの、条例に定める開示決定期限（請求の翌日から起算して14日以内）は遵守しており、適正かつ確実な事務処理を確保した。</u> <u>市民サービスの利便性の向上については、令和6年度から引き続き、給付金申請など対象者が多い手続についてオンライン化を進めるとともに、入力負担の少ない申請フォームを整備した。あわせて、石巻市LINE公式アカウントによる各担当課が作成した申請フォームへ接続するメニューの運用を継続し、機能の充実を図った。</u>			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 市民意識調査の「市政への関心」において、18歳から29歳までの年齢層では37.8%が「あまり関心がない」と回答していることが課題となっている。		幅広い年齢層に市政への関心を持っていただくため、SNSによる発信を充実するとともに、職員研修により情報が分かりやすい内容になるよう意識改革を進めた。引き続き、広聴・広報事業の充実により、市民と市の相互理解を推進する。	
② 市民が必要とする情報の効果的な配信が必要。		石巻市LINE公式アカウントで、イベント等のタイムリーな情報配信やクマ等の目撃情報配信を行った結果、友だち登録者数が増加した。	
内部評価	定性評価		定量評価【KPI】
A	○	◎	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上
◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない			

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細 節		1 多様な市民ニーズの把握に努める						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		市民等との懇談会の参加者数（単年）					担当部課	
							総務部秘書広報課	
指標の考え方		多様な市民ニーズを把握するため、「まちづくり懇談会」「動く市長室」「市長室開放デー」等、多種多様な市民との意見交換会の参加者数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 269人 「動く市長室」6総合支所4支所×25人＝250人 「市長室開放デー」及び「まちづくり懇談会」＝50人 開催方法の工夫により毎年度10人の参加者増を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）		－	150	150	280	300		
実績（人）		60	304	269	372	320	R7達成度	a
達成率		－	202.6%	179.3%	132.8%	106.6%		
細 節		2 市民の関心を高める情報発信を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		市政に関心がある市民の割合（単年）					担当部課	
							総務部秘書広報課	
指標の考え方		様々な媒体を活用して随時適切な情報を発信し、市政に対する市民の理解と関心を高める。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 70.4% 令和7年度には市民5人のうち4人は市政への関心を持つことを目標とし、毎年度2%ずつ上昇を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（%）		46.1	74.0	76.0	78.0	80.0		
実績（%）		70.4	71.2	66.7	69.3	67.6	R7達成度	b
達成率		152.7%	96.2%	87.7%	88.8%	84.5%		
細 節		3 情報公開等による透明性の確保を推進する						
重要業績評価指標（KPI）		開示請求に係る平均所要日数（単年）					担当部課	
							総務部総務課	
指標の考え方		市政について市民の知る権利を保障し、開示請求時における迅速な情報公開により、透明性の高い市政運営を推進する。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 10.6日 庁内において積極的に情報公開の推進が図られることを想定し、毎年度0.5日程度の所要日数の短縮を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（日）		9.6	9.1	8.6	8.1	7.6		
実績（日）		8.8	7.9	7.8	7.2	8.8	R7達成度	b
達成率 ※		109.0%	115.1%	110.2%	112.5%	86.3%		

細節	4 市民サービスの利便性の向上を図る					
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	LINE公式アカウントの友だち件数（単年）					担当部課
						企画部DX推進課
指標の考え方	LINE公式アカウントに登録している市民の利便性を向上させるため、提供サービスの充実を図り、さらなる友だち数の増加を目指す。					
目標値の考え方	○基準値：令和6年6月30日現在 16,927人⇒17,000人 ①R6.8以降、調整給付金のオンライン申請開始により急激な増加が見込まれる。（担当課見込:6,000人） ②転入時や母子手帳交付時、出生届提出時に友だち登録の二次元コードを配布していることにより日々微増しているが、調整給付金の6,000人増加以降（R7以降）は、これまで行政サービスを開始した際の友だち数増加の平均から1,000人程度の増加を目標とする。					
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲
目標（人）	－	－	13,000	24,000	25,000	
実績（人）	－	－	16,401	25,264	32,942	R7達成度
達成率	－	－	126.1%	105.2%	131.7%	
						a

総合計画 評価シート 【総合計画基本計画】

章	6 市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち			
節	2 持続可能な行財政運営の推進			
数値目標（KGI）	効率的な行財政運営が行われていると感じる市民の割合			
目標値の考え方	○参考値：令和元年11月～12月（総合計画策定に係る市民意識調査） 行政運営や財政運営の効率化（①＋②） ①[満足・どちらかといえば満足] 37.8% ②[どちらかといえば不満・不満]×1/2 24.2%			
設定値（％）	R3（基準値）	⇒	R5（中間値）	⇒ R7（最終値）
	37.8	⇒	39.0	⇒ 34.3

■節の達成状況

主な担当課	総務部財政課				
関係課	総務部行政経営課、総務部管財課、企画部政策企画課、企画部DX推進課、企画部ふるさと納税推進課				
令和7年度の主な取組や成果					
市職員の更なる作業時間効率化を図るため、LoGoフォーム未利用者への操作体験会のほか、効率化が期待される業務に対する個別支援を実施した結果、作業時間を大幅に削減することができた。					
公有財産売払いについては、民間での利活用の促進及び遊休地の有効活用を図るため、売払い公募を実施し令和7年度中の実績は2件となった。					
公共施設の電気利用料金については、入札による電力調達の徹底を周知したほか、東北電力が実施する節電キャンペーンに参加し、74,171円の料金還元を受けたが、削減目標額は達成できなかった。					
ふるさと納税のリピーター獲得策として、定期的なメルマガの配信やダイレクトメールの送付のほか、人気返礼品の定期便の実施や配送月指定など寄附者のニーズを踏まえた施策を実施した結果、目標額を大きく上回る寄附額を集めることができた。					
財政調整基金の取崩しについては、物価の高止まり傾向が続く中、厳しい財政運営となったが、予算編成方針「健全で持続可能な財政基盤の確立」を踏まえた予算編成及び執行を行い、目標を達成することができた。					
石巻圏域への移住定住を促す取組として、首都圏で開催された移住相談イベントへの出店や、石巻圏域お試し移住体験プログラムを実施し、魅力的なスポットを巡る移住体験ツアーを実施したところであるが、少子高齢化などに起因する自然減が大きく、人口減少の抑制には至らなかった。					
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性			
①	LoGoフォームの利用所属数及び活用業務の増加と、利便性を実感できていない職員への利用促進や便利機能の活用拡大が課題。	個別支援の実施により新規利用所属が増加した。今後は利便性の実感促進と応用機能の周知を通じてさらなる活用拡大を図る。			
②	土地の立地条件と価格の適正について課題がある。	宅建団体等を通じ、購入希望者への媒介を依頼する制度の導入を検討する。			
③	持続可能な財政基盤の確立のため、行財政改革を加速化させる必要がある。	物価高騰や賃金の上昇による公共施設の維持管理経費のほか、社会保障経費が増大する中、貴重な財源であるふるさと納税も活用しながら、財政調整基金の取崩しを抑制し、財政運営を行った。			
内部評価		定性評価		定量評価【KPI】	
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		△	◎：「aまたはb」のみでaが半数以上 ○：「aまたはb」のみでaが半数未満 △：「cまたはd」がありdが半数未満 ×：dが半数以上

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

細節	1 限られた人材、財源等を最大限活用できる体制を構築する								
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し	削減できた作業時間（単年）					担当部課			
						企画部DX推進課			
指標の考え方	限られた人材、財源等を最大限活用できる体制を構築するため、作業時間の削減につながるデジタルツールの活用を推進する。								
目標値の考え方	○基準値：令和5年度 デジタルツールの利用による作業時間削減 1,486時間 令和5年度から全庁的に導入し、削減効果が高いことが確認されたツールであるLoGoフォームについて未利用所属への利活用を図る。削減効果は利用所属へ実施したアンケート調査により把握する。								
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a		
目標（時間）	-	-	-	1,700	1,900				
実績（時間）	-	-	1,486	1,881	2,548	R7達成度			
達成率	-	-	-	110.6%	134.1%				
細節	2 未利用公有財産の有効な利活用を図る								
重要業績評価指標（KPI）	公有財産売払い件数（累積）					担当部課			
						総務部管財課			
指標の考え方	財源の確保を図るため、未利用の市有地などの公有財産を随時処分し、有効に利活用する。								
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 9件 一般競争入札にて、比較的需要の高いと考えられる未利用地を毎年度1件ずつ売払いを行う。								
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a		
目標（件） 単年 累積	1 1	1 10	1 11	1 12	1 13				
実績（件） 単年 累積	9 9	1 10	0 10	2 12	2 14	R7達成度			
達成率	900.0%	100.0%	0.0%	200.0%	200.0%				
細節	3 公共施設の維持管理経費を節減する								
重要業績評価指標（KPI）	公共施設の入札導入による電気利用料金削減額（単年）					担当部課			
						総務部行政経営課			
指標の考え方	維持管理経費の節減を図るため、公共施設への電気料金入札制度導入により電気利用料金の削減を図る。								
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 98/143施設入札導入 入札後の高圧電気料金実績 507,087,910円 入札未実施の場合の見込額 677,562,680円 削減額 170,474,770円（削減率74.84%） 1施設あたり 1,739,538円×予定施設数（令和4年度125施設、R5年度以降143施設） ※予測不能な高圧平均単価、入札単価、燃料調整額等は考慮せず令和3年度実績で固定								
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d		
目標（千円）	-	217,442	248,753	248,753	248,753				
実績（千円）	170,475	153,153	120,028	111,330	114,810	R7達成度			
達成率	-	70.4%	48.2%	44.7%	46.1%				

細 節		4 自主財源の安定的確保を図る						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		ふるさと納税寄附金額（単年）					担当部課	
							企画部ふるさと納税推進課	
指標の考え方		自主財源の確保を図るため、ふるさと納税の寄附金額を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 約13.5億円 令和5年度寄附実績において、当該年度の目標値（10億円）のみならず、令和6年度の目標値（12.5億円）を上回ったことから、計画を前倒しすることとし、令和7年度に目標値として掲げていた15億円を令和6年度の目標値とする上方修正を実施する。なお、それ以降は従前どおり毎年2.5億円ずつ増額させることを目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（億円）		－	7.00	10.00	15.00	17.50		
実績（億円）		5.32	7.99	13.50	20.10	24.98	R7達成度	a
達成率		－	114.1%	135.0%	134.0%	142.7%		
細 節		5 健全な財政運営を図る						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		財政調整基金取崩額（単年）					担当部課	
							総務部財政課	
指標の考え方		計画的な財政運営を図るため、財政調整基金（地方公共団体が財源に余裕のある年に積み立て、年度によって生じる財源の不均衡を調整する貯金）の取り崩し額を抑える。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 45.8億円 令和5年12月公表の「石巻市の財政収支見通しと今後の対応」において、計画最終年度である令和7年度の財政調整基金取崩額を23.5億円としている。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（億円）		55.1	29.2	22.4	34.3	23.5		
実績（億円）		32.0	26.0	20.0	25.0	20.0	R7達成度	a
達成率 ※		172.1%	112.3%	112.0%	137.2%	117.5%		
細 節		6 広域連携体制を強化する						
重要業績評価指標（KPI）		石巻圏域の人口増減率（対前年度比）（単年）					担当部課	
							企画部政策企画課	
指標の考え方		令和4年10月7日に石巻圏域定住自立圏共生ビジョンを策定したことから、定住自立圏構想を推進することにより、圏域における人口減少の抑止を目指す。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度末 -1.444% 平成30年度から令和3年度まで、本圏域において毎年度平均約1.26%ずつ人口が減少していることから、前年度末に対する人口増減率を-1%に留める。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（%）		－	-1	-1	-1	-1		
実績（%）		-1.444	-1.410	-1.486	-1.586	-1.645	R7達成度	c
達成率 ※		－	70.9%	67.2%	63.0%	60.7%		

総合計画 評価シート 【第2期復興・創生期間に係る対応方針】

章	1 第2期 復興・創生期間に係る対応方針						
対応方針	1 災害に強いまちづくりに向けて復興事業を確実に推進する						
数値目標（KGI）	復興事業の進捗率（累積）【終了】					復興企画部復興推進課	
指標の考え方	東日本大震災に係る復興事業について、一部完成に至っていない施設があることから、一日も早い事業の完結を目指す。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度末 86.1% 早期完成を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	—
目標（％）	100	100	－	－	－		
実績（％）	96.1	100	－	－	－	R7達成度	
達成率	96.1%	100.0%	－	－	－		

■対応方針の達成状況

主な担当課	復興企画部復興推進課（令和4年度当時）		
関係課	復興企画部復興推進課（令和4年度当時）		
令和7年度の主な取組や成果			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
①	令和4年度 完了		
②			
③			
内部評価	定性評価		定量評価【KGI】
	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		◎：a ○：b △：c ×：d

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策	1 復興事業を確実に推進する						
重要業績評価指標（KPI）	下水道復興事業進捗率（累積）					担当部課	
						建設部下水道建設課	
指標の考え方	地盤沈下等による排水不良や浸水区域となった地域の内水対策のため、ポンプ施設の早期完成を目指す。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年1月末 81.0% 早期完成を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（％）	100	100	－	－	－		
実績（％）	92.9	100	－	－	－	R7達成度	－
達成率	92.9%	100.0%	－	－	－		

総合計画 評価シート 【第2期復興・創生期間に係る対応方針】

章	1 第2期 復興・創生期間に係る対応方針						
対応方針	2 活力ある地域社会の形成に向けて被災者の心の復興を推進する						
数値目標（KGI）	「心の復興事業」参加者満足度（単年）					企画部政策企画課	
指標の考え方	被災者の心身のケア、生きがいつくりによる心の復興や、コミュニティ形成の促進等、継続した支援が必要であり、市民が自律的な生活を営めるような支援活動を実施する団体へ補助を行う「心の復興事業」へ参加した市民の満足度を上げる。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 100% 全参加者が満足できる事業内容を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（％）	100	100	100	100	100		
実績（％）	100	100	100	100	100	R7達成度	
達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

■対応方針の達成状況

主な担当課		企画部政策企画課	
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
心の復興事業において、コミュニティ形成の促進等、市民が自律的な生活を営めるような支援活動を実施する団体に補助を行っており、令和7年度は14団体が地域特性への対応や課題解決への取組を行った。 復興公営住宅に入居する方々を対象に、工作やレクリエーションなどを行うサロン活動を行うことで、住民同士のコミュニケーションを促進し、つながりが希薄である復興住宅のコミュニティ形成を築く機会を創り出したほか、復興公営住宅団地と近隣自治会住民を対象とした交流会や介護予防のワークショップなどを開催した。 新型コロナウイルス感染症の5類移行から月日が経過し、実施団体が積極的に活動を展開することができたため、令和6年度と比べて参加者数は回復し、参加者満足度は100%を継続することができた。 本事業は令和7年度で終了となるが、実施団体の今後の活動の継続に向け、被災者の「孤立防止」や「心身の健康維持」、「コミュニティ形成」を引き続き図ることができた。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① 令和8年度から各団体の自走化につなげるため、本事業の終了の告知を行うとともに、支援活動を継続する団体に対し、サポートを行うこと。		令和7年度での本事業の終了について、支援活動を実施している団体に対し、丁寧な説明及び周知を行い、各団体の自走化に向けて相談の機会を複数回設けるとともに、既存の支援制度について情報提供を行うなどサポートを実施した。 その結果、13団体から令和8年度以降も活動を継続したい旨の意向が示され、実施団体の自走化につなげることができた。	
内部評価	定性評価		定量評価【KGI】
A	◎	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎ ◎：a ○：b △：c ×：d

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策	1 被災者の心の復興を推進する						
重要業績評価指標（KPI）	「心の復興事業」参加者数（単年）					担当部課	
						企画部政策企画課	
指標の考え方	同事業の参加者数を維持し、生きがいづくりやコミュニティ形成の促進等の支援活動により、被災者の心のケアを推進する。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 9,775人 東日本大震災からの時間の経過や新型コロナウイルスの影響等のほか、地域での自立した活動に移行することが本事業の目的であることから、徐々に事業への参加者は減少するものと予想されるが、参加者を維持する。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（人）	－	8,000	7,000	7,000	7,000		
実績（人）	9,775	7,491	9,638	6,263	7,868	R7達成度	
達成率	－	93.6%	137.6%	89.4%	112.4%		

総合計画 評価シート 【地方創生の取組】

章	1 人口戦略の推進						
対応方針	1 安定した雇用を創出し稼ぐまちをつくる						
数値目標（KGI）	新規雇用創出人数（福祉関係等の専門人材を含む）（単年）					企画部政策企画課	
指標の考え方	人材の確保・育成を推進し、安定した雇用を創出することで、地域経済の活性化を図る。						
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 77人 新規創業、水産業、農業の新規雇用創出数81人、医療介護職（奨学金返還支援事業・R4：41人、R5～R7:46人）、保育士の確保人数20人の合計。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d
目標（人）	126	142	147	147	147		
実績（人）	96	116	87	55	56	R7達成度	
達成率	76.1%	81.6%	59.1%	37.4%	38.0%		

実績値内訳（人）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	担当部課
新規創業者数	17	30	17	19	12	産業部産業推進課
新規水産業就業者数	13	12	12	12	19	産業部水産課
新規就農者数	4	7	7	3	4	産業部農林課
新規奨学金交付者数 （医療介護職）	36	39	36	21	21	保健福祉部保健福祉総務課
新規一時金交付者数 （保育士）	26	28	15	0	0	保健福祉部子ども保育課

■対応方針の達成状況

主な担当課	企画部政策企画課				
関係課	保健福祉部保健福祉総務課、産業部商工課、産業部水産課、産業部農林課				
評価理由					
「安定した雇用を創出し稼ぐまちをつくる」に向けて、新たな産業創出、研究開発、産業人材の育成等の創造的事業を行う事業者に対し支援を行ったほか、担い手の確保として、水産業・農業ともに、伴走型の支援のほか、体験研修やイベント、オンライン相談を実施することにより、一定の効果が図られた。一方で、介護・医療・福祉人材の確保については、関係団体を通じた事業の周知などに努めたものの、増加には至っていない。					
内部評価	定性評価			定量評価【KGI】（括弧内はKGIが2つの場合）	
D	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	×	◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）	

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策		1 地域産業の競争力を強化する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		産業創造助成金交付による事業支援件数（単年）					担当部課		
							産業部商工課		
指標の考え方		地域間競争力を向上させるため、事業者の新たな事業展開を支援・促進し、新規販路開拓や新商品開発等の事業活動を目的とした助成金を交付する。							
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 13件 R6目標値を令和5年度実績の13件とし、令和7年度からナノテラスを活用した研究開発が見込まれるためR7目標値を15件に設定した。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P34	
目標（件）		－	8	8	13	15			
実績（件）		7	5	13	13	11	R7達成度	c	
達成率		－	62.5%	162.5%	100.0%	73.3%			
施策		2 専門人材を確保・育成する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		新規水産業就業者数（単年）					担当部課		
							産業部水産課		
指標の考え方		水産業就業者の減少が続いているため、移住者や若者を積極的に受け入れ、サポート体制の充実等により新規水産業就業者を増やす。							
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 13人 令和3年度から令和5年度までの平均値が12人であるため、毎年度13人を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P38	
目標（人）		10	10	10	13	13			
実績（人）		13	12	12	12	19	R7達成度	a	
達成率		130.0%	120.0%	120.0%	92.3%	146.1%			
施策		2 専門人材を確保・育成する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し		新規就農者数（単年）					担当部課		
							産業部農林課		
指標の考え方		農業従業者の高齢化や担い手不足が続いていることから、移住者や若者を積極的に受け入れ、サポート体制の充実等により新規就農者を増やす。							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度～令和5年度までの新規就農者数の平均値 5人 近年の実績から毎年度5人程度の確保を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P43	
目標（人）		2	2	2	5	5			
実績（人）		4	7	7	3	4	R7達成度	b	
達成率		200.0%	350.0%	350.0%	60.0%	80.0%			

施策	3 働きやすい魅力的な環境を整備する						
重要業績評価指標（KPI）	奨学金返還支援事業助成人数（単年）					担当部課	
						保健福祉部保健福祉総務課	
指標の考え方	市内に居住し、市内の事業所に勤務する医療、福祉、介護等の専門職の方に対し、奨学金返還金を助成することにより、医療、福祉、介護人材を確保する。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 36人 これまでの実績に加え、年々申請者が増加傾向にあることから、新規申請者の増加を見込んだ目標値とした。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P30
目標（人）	－	41	46	46	46		
実績（人）	36	39	36	21	21	R7達成度	d
達成率	－	95.1%	78.2%	45.6%	45.6%		

総合計画 評価シート 【地方創生の取組】

章	1 人口戦略の推進							
対応方針	2 絆を大切にし人が集まるまちをつくる							
数値目標（KGI）	社会移動増減数（単年）					企画部政策企画課		
指標の考え方	若者の地元定着や移住施策を推進し、減少幅を少なくすることで人口減少を抑制する。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年 -712人 人口ビジョンで示している推計値を活用し、転出超過数が年々減少するよう傾斜をかけて算出。令和元年より397人の転出超過を抑制することを目標とすることから、転入者が増え（転出者が減り）令和7年は315人の転出超過となる。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d	
目標（人）	-380	-350	-330	-317	-315			
実績（人）	-784	-440	-556	-682	-664	R7達成度		
達成率 ※	48.4%	79.5%	59.3%	46.4%	47.4%			
数値目標（KGI）	地元就職割合（単年）					産業部商工課		
指標の考え方	学生の地元就職割合を向上させることで人口減少を抑制する。							
目標値の考え方	○基準値：令和2年4月末 51.5% 施策により基準値よりも増加するよう努める。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	b	
目標（%）	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0			
実績（%）	54.2	54.5	45.7	49.7	46.0	R7達成度		
達成率	98.5%	99.0%	83.0%	90.3%	83.6%			

■対応方針の達成状況

主な担当課	企画部政策企画課		
関係課	危機管理部震災伝承課、企画部SDGs移住定住推進課、企画部ふるさと納税推進課、産業部産業推進課、産業部商工課、教育委員会生涯学習課		
評価理由			
「絆を大切にしが人が集まるまちをつくる」に向けて、従前の移住定住施策に加え、合同企業説明会等の開催回数や対象の見直しにより参加者の増加も図られた。また、震災遺構への来訪者増加に向け、様々な企画展の開催や観光やインバウンドを意識した施設のPRに力を入れ、来訪者の増加となった。 ふるさと納税の寄附件数は、各種リピーター獲得策により年々増加している。			
内部評価	定性評価		定量評価【KGI】（括弧内はKGIが2つの場合）
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策	1 地方移住・移転の推進を図る							
重要業績評価指標（KPI）	移住対策事業を活用した本市への移住人数（単年）					担当部課		
						企画部SDGs移住定住推進課		
指標の考え方	移住対策事業（移住相談、空き家バンク、石巻市定住促進住宅取得等補助金、お試し移住体験）を推進することで、移住人口の増加を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 76人 令和3年度から移住希望者に対する住宅取得等の補助金を創設したことから、補助金を活用した移住者130人、相談窓口を利用した移住者20人を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P4	
目標（人）	－	150	150	150	150			
実績（人）	76	152	165	143	181	R7達成度	a	
達成率	－	101.3%	110.0%	95.3%	120.6%			
施策	1 地方移住・移転の推進を図る							
重要業績評価指標（KPI）	立地企業件数（単年）					担当部課		
						産業部産業推進課		
指標の考え方	企業誘致は新たな雇用創出や定住人口の増加につながるほか、市税収入等の増加にも効果があることから、企業立地意向調査や企業訪問等に取り組み、市内に新たに立地する企業数を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 5件 過去5年間の企業立地実績をベースに、今後の用地分譲件数を考慮して設定した。 ※過去5年の平均立地件数/年＋今後平均分譲数/年×(100－指定企業者率34%)							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P48	
目標（件）	10	10	10	10	10			
実績（件）	10	9	8	6	4	R7達成度	d	
達成率	100.0%	90.0%	80.0%	60.0%	40.0%			
施策	2 若者の地元定着の推進を図る							
重要業績評価指標（KPI）	合同企業説明会への求職者の参加人数（単年）					担当部課		
						産業部商工課		
指標の考え方	産業人材を確保及び育成するため、関係機関との連携により合同企業説明会の参加人数を増やす。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 一般向け 16人、高校生向け 413人（2回） 令和4年度からは高校生の合同企業説明会参加者を含めて設定した。 一般求職者向け 100人（年2回×1回あたり50人） 高校生向け 250人（年1回）							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P50	
目標（人）	200	350	350	350	350			
実績（人）	429	77	526	390	478	R7達成度	a	
達成率	214.5%	22.0%	150.2%	111.4%	136.5%			

施策		2 若者の地元定着の推進を図る						
重要業績評価指標（KPI）	ふるさと子どもカレッジ参加者満足度（単年）						担当部課	
							教育委員会生涯学習課	
指標の考え方		子どもたちが郷土の自然や文化を体験するため、地域や企業の協力のもと、年間7回を通して各地区の特色を生かした講座を開催し、参加者の満足度が高い内容を実施することで参加者数を増やす。						
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 83% 全参加者が満足できる事業内容を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P60
目標（％）		100	100	100	100	100		
実績（％）		100	100	100	100	88.9	R7達成度	b
達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	88.9%		
施策		3 関係人口の創出・拡大、つながりの継続を図る						
重要業績評価指標（KPI）	震災遺構来訪者数（単年）						担当部課	
							危機管理部震災伝承課	
指標の考え方		震災遺構来訪者数を増やし、東日本大震災の経験や教訓を多くの人々に伝え続ける。						
目標値の考え方		○大川小：令和3年7月開場 令和3年度 49,245人 門脇小：令和4年4月開場 年間の来訪者を門脇小58,000人（月4,800人）、大川小80,000人（月6,600人）を目標とし、企画展の開催や常設展示の更新等により維持を目指す。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P12
目標（人）		45,000	138,000	138,000	138,000	138,000		
実績（人）		49,245	116,520	129,744	113,312	129,060	R7達成度	b
達成率		109.4%	84.4%	94.0%	82.1%	93.5%		
施策		4 地方への資金の流れの創出・拡大を図る						
重要業績評価指標（KPI）	ふるさと納税寄附件数（単年） ☆R6.11 目標値見直し						担当部課	
							企画部ふるさと納税推進課	
指標の考え方		ふるさと納税を通じて得た個人と本市とのつながりを活かし、各種情報発信などを通じてつながりを構築する。						
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 約105,000件 約13.5億円 1件当たり約12,900円 寄附額を R6:15億円、R7:17.5億円に設定し、令和5年度の寄附単価を基に算出した。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（件）		30,000	65,000	81,000	117,000	136,000		
実績（件）		42,978	69,930	104,891	129,533	158,579	R7達成度	a
達成率		143.2%	107.5%	129.4%	110.7%	116.6%		

総合計画 評価シート 【地方創生の取組】

章	1 人口戦略の推進							
対応方針	3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまちをつくる							
数値目標（KGI）	合計特殊出生率（単年）					企画部政策企画課		
指標の考え方	出生数の減少が続く中、合計特殊出生率を確認することで、自分が暮らすまちで安心して子どもを産み育てる環境づくりができていないかを測る。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年 1.25 総合計画と一体的に策定した人口ビジョンで示している推計値を目標値とする。 ※令和5年実績値：令和4年合計特殊出生率							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	c	
目標（-）	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52			
実績（-）	1.23	1.20	1.15	1.09	1.08	R7達成度		
達成率	80.9%	78.9%	75.6%	71.7%	71.0%			
数値目標（KGI）	女性人口（15～49歳）（単年）					企画部政策企画課		
指標の考え方	結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなう環境を整備することで、女性の流出を抑え、女性人口を維持する。							
目標値の考え方	○基準値：令和2年3月 25,033人 人口ビジョンで示している推計値を活用。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	b	
目標（人）	21,696	21,696	21,696	21,696	21,696			
実績（人）	23,542	22,970	22,379	21,678	20,827	R7達成度		
達成率	108.5%	105.8%	103.1%	99.9%	95.9%			

■対応方針の達成状況

主な担当課	企画部政策企画課		
関係課	企画部地域振興課、保健福祉部健康推進課、保健福祉部子育て支援課、保健福祉部子ども保育課、教育委員会学校教育課		
評価理由			
「結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまち」に向けて、伴走型相談支援の見直しや、放課後児童クラブの全地区民間委託や、民間保育所の誘致などにより子育て環境の充実が図られた。 一方で教育環境の充実については、教員への研修会の開催等により意識の醸成を図っているものの、児童生徒や保護者の抱える問題の多様化・複雑化により継続的な相談体制の充実が必要となっている。			
内部評価	定性評価		定量評価【KGI】（括弧内はKGIが2つの場合）
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	△ ◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策		1 結婚・妊娠・出産への切れ目のない支援を推進する							
重要業績評価指標（KPI）	新生児訪問事業（乳児全戸訪問事業）実施率（単年）	担当部課							
		保健福祉部健康推進課							
指標の考え方		出産から子育て期の継続的な支援を行うため、新生児の訪問事業（保健師による生後4ヶ月未満の赤ちゃんがいる世帯への訪問事業）の実施率を上げる。							
目標値の考え方		○基準値：令和元年度 98.3% 対象期間中に里帰り出産等で訪問できない世帯があるが、それ以外の世帯へ訪問を実施する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P22	
目標（％）		98.5	98.5	98.5	98.5	98.5			
実績（％）		94.4	98.8	97.0	98.5	99.3	R7達成度	a	
達成率		95.8%	100.3%	98.4%	100.0%	100.8%			
施策		2 子育て支援の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI）	保育施設及び放課後児童クラブ待機児童数（単年）	担当部課							
		保健福祉部子ども保育課 保健福祉部子育て支援課							
指標の考え方		保育施設等の待機児童数を減少させ、子育て環境を充実させる。							
目標値の考え方		○基準値：令和2年度（4月時点） 保育施設12人、児童クラブ170人 保育施設や放課後児童クラブへ申請したものの、定員超過等のため入所・入級できない児童が発生しないよう毎年度0人を目指す。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P22	
目標（人） 保育施設 児童クラブ		0 0	0 0	0 0	0 0	0 0			
実績（人） 保育施設 児童クラブ		8 5	3 0	3 9	2 2	0 0	R7達成度	a	
達成率		－	－	－	－	－			
施策		3 学校教育の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合（単年）	担当部課							
		教育委員会学校教育課							
指標の考え方		児童生徒の主体的に生きる力を育成するため、児童生徒の意欲を高めることが重要であることから、学校が楽しいと感じている児童生徒の割合を高める。							
目標値の考え方		○基準値：令和5年度 92.2% 高い数値で推移しているが、引き続き高水準を維持する。							
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P54	
目標（％）		80.0	82.0	84.0	93.0	94.0			
実績（％）		91.7	91.0	92.2	92.4	93.0	R7達成度	b	
達成率		114.6%	110.9%	109.7%	99.3%	98.9%			

施策		3 学校教育の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し		支援対象児童生徒の解決・好転件数の割合（単年）				担当部課		
						教育委員会学校教育課		
指標の考え方		スクールソーシャルワーカー（教育機関において社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する者）が関わり、支援対象の児童生徒の抱える問題の解決・好転を目指す。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 解決・好転件数の割合 45.3% スクールソーシャルワーカーが児童生徒の環境や支援のためのネットワーク構築を推進し、問題の解決・好転を図る。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P58
目標（％）		－	－	－	70.0	70.0		
実績（％）		－	－	52.5	60.5	41.1	R7達成度	d
達成率		－	－	－	86.4%	58.7%		
施策		4 仕事と子育ての両立を図る						
重要業績評価指標（KPI）		「育児や家事の役割」について「夫婦同様」との回答割合（単年）				担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方		セミナーや研修等を開催し、男女共同参画への理解を深めることで、社会のあらゆる分野における意識啓発を図る。						
目標値の考え方		○基準値：令和2年度 60.1% 男女共同参画基本計画において、計画最終年度となる令和7年度目標値を70%としている。						
設定値（単位）		R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P8
目標（％）		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0		
実績（％）		49.9	66.1	72.4	75.7	72.7	R7達成度	a
達成率		71.2%	94.4%	103.4%	108.1%	103.8%		

総合計画 評価シート 【地方創生の取組】

章	1 人口戦略の推進							
対応方針	4 災害に強く安全安心に暮らせる魅力的なまちをつくる							
数値目標（KGI）	住み続けたいと思う市民の割合（単年）					企画部政策企画課		
指標の考え方	市民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、まちの機能の充実や地域資源の活用による、安心で魅力的なまちづくりが行われているかを測る。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年11～12月 81%（総合計画策定に係るアンケート調査） 令和元年度から令和3年度は1%ずつ、令和3年度から令和7年度にかけては毎年度0.5%ずつ上昇を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	b	
目標（%）	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0			
実績（%）	81.3	83.5	79.6	81.0	72.0	R7達成度		
達成率	97.9%	100.0%	94.7%	95.8%	84.7%			
数値目標（KGI）	防災訓練参加率（単年）					危機管理部危機対策課		
指標の考え方	災害時に迅速に対応するためには、市民一人ひとりの防災意識や災害への備えが重要であることから、防災訓練の参加率を上げることで、地域防災力の向上を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 17.75% 直近の一番高い参加率が平成30年度の20%であることから、令和7年度には人口の20%（令和7年人口推計値からの算出で25,900人）の参加率を目標値とし、令和4年度から毎年度0.56%（令和4年9月末時点人口算出で767人）の増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P6	
目標（%）	15.50	18.31	18.87	19.43	20.00			
実績（%）	17.75	15.45	18.14	12.98	14.57	R7達成度	c	
達成率	114.5%	84.3%	96.1%	66.8%	72.8%			

■対応方針の達成状況

主な担当課	企画部政策企画課				
関係課	危機管理部危機対策課、危機管理部震災伝承課、企画部地域振興課、市民生活部地域協働課、保健福祉部保健福祉総務課、保健福祉部介護福祉課、産業部観光政策課、教育委員会生涯学習課				
評価理由					
「災害に強く安全安心に暮らせる魅力的なまちをつくる」に向けて、技能実習生を対象とした公共交通の利用促進や、住民協議会設立による交流事業数の増加、金華山のPRや萬画館の改修、外部人材の活用による教育旅行の企画を行ったほか、地域互助活動推進事業の認知向上により活動が増えるなど、地域の活性化が図られ、防災指導員数も増えている。一方で複合文化施設の利用者数や高齢者の生きがいがづくりに関しては、企画展の開催や講座の新規開設を行ったが目標を下回った。					
内部評価		定性評価		定量評価【KGI】（括弧内はKGIが2つの場合）	
C	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない		△	◎：a（どちらもa） ○：b（どちらも「aまたはb」） △：c（どちらかが「cまたはd」） ×：d（どちらもd）

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策	1 質の高い暮らしのためのまちの機能の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI）	公共交通利用者数（単年）					担当部課		
						企画部地域振興課		
指標の考え方	公共交通利用者は減少傾向にあることから、利用者数を測ることにより、市民にとって利用しやすい交通体系が構築されているか確認するほか、利用者の増加により持続可能な公共交通ネットワークを構築する。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年度 361,398人 令和元年度の実績を基準とし、毎年度1%ずつ増加を目指す。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	368,662	372,349	376,072	379,833	383,631			
実績（人）	297,157	314,862	321,528	339,706	331,990	R7達成度	b	
達成率	80.6%	84.5%	85.4%	89.4%	86.5%			
施策	1 質の高い暮らしのためのまちの機能の充実を図る							
重要業績評価指標（KPI） ★R6.11 指標見直し	住民協議会による交流事業数（単年）					担当部課		
						市民生活部地域協働課		
指標の考え方	住民協議会の交流事業により地域住民間の交流を促進し、地域コミュニティの活性化を推進する。							
目標値の考え方	○基準値：1地区あたり3件の交流事業を実施する。 令和6年度 3件×11地区＝33件 令和7年度 3件×16地区＝48件							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P2	
目標（事業）	－	－	－	33	48			
実績（事業）	－	－	17	36	61	R7達成度	a	
達成率	－	－	－	109.0%	127.0%			
施策	2 資源を活かした地域の魅力づくりを推進する							
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	観光客入込数（単年）					担当部課		
						産業部観光政策課		
指標の考え方	観光業は即効性が高く、地域産業と関連して経済的効果が大きいことから、各種取組を推進し、観光地点及び行催事・イベント等に訪れた人数を増やし、地域経済の活性化を図る。							
目標値の考え方	○基準値：令和元年実績値 4,047,035人 令和5年度実績値4,931,248人 令和元年度と令和5年度における実績値の年平均成長率（幾何平均）である5.06%を令和元年度を基準として前年度の目標値に乗じた値。							
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲		
目標（人）	3,600,000	3,600,000	3,600,000	5,100,000	5,400,000			
実績（人）	2,773,778	4,248,570	4,931,248	4,702,395	5,694,042	R7達成度	a	
達成率	77.0%	118.0%	136.9%	92.2%	105.4%			

施策	2 資源を活かした地域の魅力づくりを推進する						
重要業績評価指標（KPI） ☆R6.11 目標値見直し	複合文化施設利用者数（単年）					担当部課	
						教育委員会生涯学習課	
指標の考え方	企画展・特別展を開催し、市民に文化・芸術に触れる場を提供することで、石巻市の歴史・文化に対する理解を深めるとともに、心の豊かさの醸成を図る。						
目標値の考え方	○基準値：令和5年度 152,474人 令和5年度の実績を基準とし、毎年度5,000人の増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	b
目標（人）	100,000	110,000	120,000	157,474	162,474		
実績（人）	104,478	133,348	152,474	142,775	137,773	R7達成度	
達成率	104.4%	121.2%	127.0%	90.6%	84.7%		
施策	3 安心して暮らせる医療・福祉環境の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI）	地域互助活動実施団体件数（単年）					担当部課	
						保健福祉部保健福祉総務課	
指標の考え方	高齢者・障害者・子ども・生活困窮者を対象とした日常生活上の助け合い活動（送迎支援、買物支援、見守り・声がけ支援等）を行う団体数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 11件 令和5年度以降は同様の事業を整理統合し、申請実績のない自治会等に対して「互助」の意識醸成を図ることを目的として事業の見直しをすることから、これまでの実績に加え、新型コロナウイルス感染症の影響下においても地域活動に取り組んでいる団体の実績を勘案し目標値とした。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P30
目標（件）	11	15	55	58	61		R7達成度
実績（件）	13	14	41	56	61		
達成率	118.1%	93.3%	74.5%	96.5%	100.0%		
施策	3 安心して暮らせる医療・福祉環境の充実を図る						
重要業績評価指標（KPI）	「生きがい」を持ちながら暮らしている高齢者の割合（単年）					担当部課	
						保健福祉部介護福祉課	
指標の考え方	高齢者の心身の健康維持や向上を図るためには、日々の生活の中で「生きがい」を持つことが重要であることから、「生きがい」を持つ高齢者の割合を高める。						
目標値の考え方	○基準値：令和2年度 67.7% 策定時において、第3期石巻市地域福祉計画（平成29年度～令和3年度）の目標値を達成していなかったため、同目標値とした。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	基本計画 P24
目標（%）	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0		R7達成度
実績（%）	70.8	70.1	72.6	73.8	64.9		
達成率	88.5%	87.6%	90.7%	92.2%	81.1%		

施策	4 災害に強いまちづくりを推進する						
重要業績評価指標（KPI）	防災指導員数（累積）					担当部課	
						危機管理部震災伝承課	
指標の考え方	地域で中心的な役割を担い、防災活動支援や防災意識向上の啓発活動などを行う防災指導員数を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 247人 市内の自主防災組織数が227組織あることから、1組織2名の配置を目指し育成し、454名の目標とするが、資格取得後における自然減、社会減を10％と見込み、年40名の増加を目指す、令和7年度には407名の防災指導員を確保する。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	
目標（人）	297	287	327	367	407		
実績（人）	247	314	327	392	442	R7達成度	a
達成率	83.1%	109.4%	100.0%	106.8%	108.5%		

総合計画 評価シート 【地方創生の取組】

章	2 未来都市の実現						
対応方針	1 コミュニティを核とした持続可能な地域社会をつくる						
数値目標（KGI）	市民のSDGs認知度（単年）					企画部SDGs移住定住推進課	
指標の考え方	SDGsの認知度を高めることで、持続可能な地域づくりに取り組む市民を増やす。						
目標値の考え方	○基準値：令和3年度 59.4% 令和3年度は主婦層の認知度が低かったため、令和4年度はこれまでの取組の他にスーパーへのPOPの掲示や市報での身近なSDGsの取組紹介等、主婦層をターゲットとした取組を行ってきたことから、令和4年度の認知度は70%を見込み、令和5年度以降は5%ずつの増加を目指す。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a
目標（％）	40.0	50.0	75.0	80.0	85.0		
実績（％）	59.4	72.4	81.7	81.7	90.4	R7達成度	
達成率	148.5%	144.8%	108.9%	102.1%	106.3%		

■対応方針の達成状況

主な担当課		企画部SDGs移住定住推進課	
関係課			
令和7年度の主な取組や成果			
SDGs認知度向上に向けた取組として、学校からの要請に基づき出前講座を4回実施したほか、新市施行20周年記念事業としてSDGsセミナーを総合支所管内にて開催した。そのほか、新たに環境課主催の「環境フェア」に出展し、SDGsに先進的に取り組んでいる小学校の活動内容を紹介した。いしのまき圏域での取組としては、大型商業施設と連携してSDGsフェスを開催し、小学校やパートナー企業の活動内容を紹介するとともにワークショップ等のイベントを実施した。また、ビーチクリーン活動を各市町で実施したほか、シンポジウムを開催し、様々な層に対してSDGsの普及啓発活動を行った。 グリーンスローモビリティ（電動カート）事業については、普段の買い物や地域での集まりやイベントの際の移動手段として利用されたほか、SDGsフェスや夏祭りの際に試乗会を実施し、令和7年度は延べ215名の利用となったが、費用対効果や利用実態の観点から、令和7年度をもって事業を終了することとなった。			
令和7年度における主な課題		改善した点・方向性	
① グリーンスローモビリティ（電動カート）の稼働率が低いため、利用促進を促すチラシの配布やボランティアドライバーの確保などが課題となっている。		チラシ配布等により利用促進を図ってきたが、利用者減少および維持費用の観点から、利用者及び関係者の合意形成のうえ、令和7年度事業終了とした。	
内部評価	定性評価		定量評価【KGI】
A	○	◎：課題を改善し効果を上げることができた ○：課題の改善に取り組んでいる ×：課題が改善されず効果が上がっていない	◎ ◎：a ○：b △：c ×：d

■委員使用欄

外部評価	評価理由・意見及び指摘事項

施策		1 地域に雇用を生み稼ぐ仕組みを構築する						
重要業績評価指標（KPI）	ハイブリッドリユース事業によって生産されたグリーンスローモビリティの延べ利用者数（単年）					担当部課		
						企画部SDGs移住定住推進課		
指標の考え方		ハイブリッドリユースにより生産されたグリーンスローモビリティを活用することで、地域経済の活性化を図る。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 152人（A地区のみ） ・配置するカートは2台。（A地区1台、B地区1台（R5～配置）） ・運行回数は週2回、年間（52週）100回と想定 【A地区】R4～R7の目標値について、R3実績からの平均乗車人数3人×運行回数100回＝300人 【B地区】R5目標値について、平均乗車人数4人×運行回数80回（運用初年度のため）＝320人、R6～R7の目標値については、平均乗車人数4人×運行回数100回＝400人 ※参考：カーシェア会員数 A地区 47名 B地区73名						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d	
目標（人）	－	300	620	700	700			
実績（人）	152	277	83	322	215	R7達成度		
達成率	－	92.3%	13.3%	46.0%	30.7%			
施策		2 地域コミュニティによる支え合いを推進する						
重要業績評価指標（KPI）	カーシェアリングの買い物等延べ利用者数（単年）					担当部課		
						企画部SDGs移住定住推進課		
指標の考え方		カーシェアリングの利用者を向上させ、地域コミュニティの活性化を図り、地域に暮らす人が支え合いながら生活することのできる地域社会をめざす。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 11,160人 カーシェアリング協会において実績にあわせて設定した。						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	a	
目標（人）	2,200	2,400	11,500	11,750	12,000			
実績（人）	11,160	12,756	12,814	13,028	14,245	R7達成度		
達成率	507.2%	531.5%	111.4%	110.8%	118.7%			
施策		3 低炭素社会を実現する						
重要業績評価指標（KPI）	グリーンスローモビリティの走行距離（単年）					担当部課		
						企画部SDGs移住定住推進課		
指標の考え方		環境への負荷が少ないグリーンスローモビリティを活用することで低炭素社会の実現を目指す。						
目標値の考え方		○基準値：令和3年度 98km（A地区のみ） ・配置するカートは2台。（A地区1台、B地区1台（R5～配置）） ・運行回数は週2回、年間（52週）100回と想定 【A地区】R4～R7の目標値について、R3実績からの平均走行距離3km/回×運行回数100回＝300km 【B地区】R5目標値について、平均走行距離5km×運行回数80回（運用初年度のため）＝400km、R6～R7の目標値については、平均走行距離5km×運行回数100回＝500km ※参考：給電ステーションからイオンモール石巻までの距離 A地区 1km B地区 1.7km						
設定値（単位）	R3	R4	R5	R6	R7(最終)	再掲	d	
目標（km）	－	300	700	800	800			
実績（km）	98	279	244	510	243	R7達成度		
達成率	－	93.0%	34.8%	63.7%	30.3%			